

令和8年度授業計画（シラバス）

伝統文化と環境福祉の専門学校

伝統建築大工学科

科目名	建築環境工学				
担当教員	木下 俊明	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築環境工学は、建築物を取り巻く外部環境としての自然気象や都市気候について、また人体の生理にかかわる室内環境について学び、建築と人間の健康を考える。				
学習目標 (到達目標)	建築にかかわる環境を理解し、建築と人間の健康について理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：図説 建築環境 編者：松原斎樹、長野和雄 学芸出版社				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	建築環境	(1) 風土と建築 (2) 都市環境と建築 日本全体の風土・地域の風土など例を示し、理解できる。			
2	外部気候	(1) 気温 (2) 湿度 (3) 風 (4) 雨・雪が建築にどのような影響があるかを理解できる。			
3	室内気候	(1) 温熱四要素 (2) 温熱環境の快適指標、例題を解きながら理解できる。			
4	伝熱	(1) 伝導・対流・放射 (2) 熱貫流 (3) 断熱 (4) 熱容量、例題を解きながら理解できる。			
5	結露	(1) 空気線図 (2) 結露の防止 例題を解きながら理解できる。			
6	換気と通風 1	(1) 空気 (大気) の成分 (2) 空気の汚染物質の種類 (3) 換気、の目的を理解できる。			
7	換気と通風 2	(1) 換気方式 (2) 換気の法的規制 (3) 通風、 例題を解きながら理解できる。			
8	日照	(1) 光効果 (2) 太陽の位置と時刻 (3) 可照・日照 人間の健康との関係が理解でき、建築との関係も理解できる。			
9	日影 1	(1) 日影曲線 (2) 建物の形状と配置 (3) 建物開口部 (窓) からの日照 (4) 日影規制、例題を解きながら理解できる。			
10	日影 2	日影線図の例題を解く。			
11	日射	(1) 太陽定数 (2) 方位別壁面の直達日射量 (3) 日照調節 以上が確実に理解できる。			
12	採光 1	(1) 光の単位 (2) 視覚 (3) 昼光率、例題を解きながら理解できる。			
13	採光 2	(1) 採光方法 (2) 法的規制 (3) 天空照度、以上が確実に理解できる。			
14	色彩	(1) 色の三属性 (2) 色彩の心理的效果 (3) 色彩調整 以上が確実に理解できる。			
15	音環境	(1) 音の速さ (2) 音の三要素 (3) 音の進み方 (4) 音の強さのレベル (5) 音の大きさのレベル (6) 音の減衰 (7) 遮音と吸音 (8) 騒音 (9) 室内音響、以上のことが例題を含めて理解できる。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築法規Ⅰ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築法規は、その建築物を使用・利用する人の生命と健康等を守るための規定—単体規定と集団規定とがある。本講義は建築を学ぶ上で、他の建築科目に基本事項として関係する講義である。したがって健康の知識と同時に法律の用語など難しい内容を図解を用い、理解できる内容で進める。これらの基礎知識を修得することにより、他の建築科目の基本的な役割と建築における社会の役割を説明する。				
学習目標 (到達目標)	建築の基礎知識と役割について理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築法規 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社 補助教材：建築基準法 法令集				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	概説 建築基準法1条			建築の法律と学習目標について（建築の法律が社会的にどのような役割をはたしているのか説明できる。）	
2	国の重要建築物について			建築物に関する用語（1）建築物（2）準用工作物（3）法の適用が除外される建築物などについて説明できる。	
3	用語の定義			（4）特殊建築物についての法規制が一般建築物より厳しい理由を説明できる。	
4	用語の定義			（5）建築設備（6）居室（7）主要構造部とは（これらの用語を的確に なぜかを理解し説明できる。）	
5	用語の定義			（8）構造耐力上主要な部分・別科目（建築構造）とあわせて理解し説明ができる。	
6	用語の定義			（9）延焼のおそれのある部分・防火関係の内容とからめて理解し説明ができる。	
7	用語の定義			（10）延焼のおそれのある部分・防火関係の内容とからめて理解し説明ができ、例題を用いて計算できる。	
8	面積・高さ等の算定 1・一般用語			（1）建築（2）大規模の修繕（3）大規模の模様替（4）敷地 以上の用語を理解し説明ができる。	
9	面積・高さ等の算定 1・一般用語			（5）地盤面（6）地階 以上の用語を理解し説明ができる。	
10	面積・高さ等の算定 2・面積算定			（1）敷地面積（2）建築面積（3）床面積 以上の面積計算を参考例を用い、正しい答えを求めることができる。	
11	面積・高さ等の算定 2・面積算定			（4）延べ面積（5）築造面積 以上の面積計算を参考例を用い、正しい答えを求めることができる。	
12	面積・高さ等の算定 3・高さ等の算定			（1）建築物の高さ（2）軒の高さ（3）階数（4）避難階 以上の（1）で道路斜線の計算例を用い、理解できる。	
13	道路			（1）道路の定義（2）敷地と道路の関係 敷地面積などで道路が関係してくる。このこととの関連が理解できる。	
14	建築手続 1・用語の定義			（1）建築主（2）設計者（3）工事施工者（4）建築主事 （5）特定行政庁 建築の計画から完成まで携わる関係者が理解できる。	
15	建築手続 1・用語の定義			（6）指定確認検査機関（7）建築審査会（8）建築確認 （9）許可（10）認可 建築に携わる関係機関が理解できる。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築法規 II				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築法規は、その建築物を使用・利用する人の生命と健康等を守るための規定—単体規定と集団規定とがある。本講義は建築を学ぶ上で、他の建築科目に基本事項として関係する講義である。したがって健康の知識と同時に法律の用語など難しい内容を図解を用い、理解できる内容で進める。これらの基礎知識を修得することにより、他の建築科目の基本的な役割と建築における社会の役割を説明する。				
学習目標 (到達目標)	建築の基礎知識と役割について理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築法規 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社 補助教材：建築基準法 法令集				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	一般構造・設備規定	(1) 敷地の衛生及び安全(2) 居室の採光(3) 有効面積の算定方法以上の採光計算を、例題を用いて理解できる。			
2	一般構造・設備規定	(3) 採光有効面積の算定方法以上の採光計算を、例題を用いて理解できる。			
3	一般構造・設備規定	(4) 居室の換気(5) 特殊建築物の居室の換気(6) 「換気設備を設けるべき調理室等」の設ける換気設備(7) 換気設備が理解できる。			
4	一般構造・設備規定	(8) 居室の天井の高さ(算定) (9) 居室の床の高さ及び防湿方法(10) 地階における住宅等の居室。が理解できる。			
5	一般構造・設備規定	1) 長屋又は共同住宅の各戸の塀壁 2) 石綿その他の物質の対策 以上の対策と材料を覚える。			
6	一般構造・設備規定	1) 換気設備の義務付け、2) 天井裏等の制限、3) 令第20条の9に基づく居室の認定、が理解できる。			
7	一般構造・設備規定 (階段)	1) 踊場の幅、けあげ・路面の寸法 2) 踊場の位置及び踏幅、手摺り等 3) 階段に代わる傾斜路 4) 特殊の用途に専用する階段			
8	一般構造・設備規定 (便所)	1) 便所 2) 便所の採光及び換気 3) 特殊建築物及び特定区域の便所の構造 4) 合併処理浄化槽の構造、以上が理解できる。			
9	一般構造・設備規定 (その他の設備)	1) 避雷設備 2) 給排水設備 3) 昇降機設備、が理解できる。			
10	防火 ・1	1) 大規模の建築物の主要構造部 2) 法22条指定区域内の建築制限 3) 大規模の木造建築物等の外壁等、以上が理解できる。			
11	防火 ・2	1) 木造建築物等の防火壁・塀壁等 2) 耐火建築物又は準耐火建築物 3) 防火区画等 4) 建築物に設ける煙突、が理解できる。			
12	避難施設等 ・1	1) 無窓居室 2) 適用の範囲 3) 廊下・直通階段 4) 避難階段 5) 各種出口・屋外広場等、が理解できる。			
13	避難施設等 ・2	1) 排煙設備 2) 非常用の照明装置 3) 非常用の進入口 4) 敷地内の避難上及び消化上必要な通路等、が理解できる。			
14	避難施設等 ・3 構造強度 ・1	1) 避難上の安全の検証 2) 内装制限、1) 構造設計の原則 以上の内容が理解できる。			
15	構造強度 ・2	1) 許容応力度等の計算、荷重及び外力、許容応力度と材料強度、構造部材等、が理解できる。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築法規Ⅲ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築法規は、その建築物を使用・利用する人の生命と健康等を守るための規定—単体規定と集団規定とがある。本講義は建築を学ぶ上で、他の建築科目に基本事項として関係する講義である。したがって健康の知識と同時に法律の用語など難しい内容を図解を用い、理解できる内容で進める。これらの基礎知識を修得することにより、他の建築科目の基本的な役割と建築における社会の役割を説明する。				
学習目標 (到達目標)	建築の基礎知識と役割について理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築法規 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社 補助教材：建築基準法 法令集				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	用途地域	1) 用途地域 2) 特別用途地域 3) 特定用途制限地域 4) 住居系用途地域における自動車庫の規制、を理解できる。			
2	面積制限 1	1)容積率、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。			
3	面積制限 2	2)容積率、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。			
4	面積制限 3	1) 建蔽率、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。			
5	建築物の高さ 1	1) 道路斜線制限 2) 隣地斜線制限、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。			
6	建築物の高さ 2	1) 北側斜線 2) 天空率 3) 日影による中高層の建築物の高さ制限、が理解できる。			
7	防火地域・準防火地域	防火地域・準防火地域の内容が理解できる。			
8	基準法のその他の規定	1) 建築協定 2) 地区計画等の区域 3) その他 これらの内容が理解できる。			
9	建築士法	1) 目的 2) 定義 3) 設計、工事監理 4) 免許・登録 5) その他 これらの内容が理解できる。			
10	建設業法	1) 目的 2) 定義 3) 建設業の許可 4) その他 これらの内容が理解できる。			
11	その他の法律	1) 消防法			
12		2) 都市計画法			
13		3) 住宅の品質確保の促進等に関する法律（品確法）			
14		4)高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）			
15		5) 建築物の耐震改修の促進に関する法律			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築法規 IV				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	この授業の狙いの1つは、建築基準法関係法令集を徹底活用し、様々な法令に関しその根拠条文の構成を理解すること。2つめは最新の条文改定部分を認識することである。				
学習目標 (到達目標)	建築の基礎知識と役割について理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築法規 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社 補助教材：建築基準法 法令集（総合資格学院）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	建築法規の概要・用語の定義		建築法規の歴史・役割・体系及び建築物に関する用語の定義 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
2	面積・高さ等の算定		面積・高さの算定、地盤面、地階、階数の定義 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
3	建築手続きに関する用語、		建築、大規模の修繕、大規模の模様替えの定義、行政機関の役割 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
4	単体規定（一般構造）		敷地の衛生と安全、採光、換気等の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
5	〃（構造強度）		建築物の構造耐力、荷重と外力等の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
6	〃（防火と内装制限）		大規模建築物の主要構造部、法22条区域の建築物の防火等の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
7	〃（避難施設等）		避難規程の適用の範囲、避難経路、避難階段等の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
8	〃（建築設備）		給排水、空調和、エレベーター・エスカレーター、避雷設備の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
9	集団規定（道路と敷地）		道路の定義、接道義務、道路内の建築制限、私道の変更・廃止等の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
10	〃（用途地域）		用途地域の指定、用途の制限の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
11	〃（面積制限）		容積率、建ぺい率、外壁の後退距離の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
12	〃（建築物の高さ）		絶対高さの制限、斜線制限（道路、隣地、北側）、日影規制の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
13	〃（防火地域・準防火地域）		防火地域、準防火地域内の建築制限の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
14	確認申請と手続規定		確認と許可、工事の着工と完了（届出、検査）、違反建築物に対する措置の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
15	関連法令（建築士法・建設業法・その他）		都市計画法、消防法、バリアフリー法、住宅品質確保法等の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築計画Ⅰ				
担当教員	井土 英樹		実務授業の有無		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	計画Ⅰは、(建築物) その中に暮らす人が安心して生活ができるためには、生活そのものへの追求と機能を重視した基本的な面と造形的な美しさを追及する面とを結び合わせて、授業を進めていく。				
学習目標 (到達目標)	構造計画、設備計画、避難・防災計画等を理解し、図面化できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築計画 著者：福田健策+高梨亮子 学芸出版社 補助教材：住まいの寸法・計画辞典 著者：岩井一幸・奥田宗幸 彰国社				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	計画一般 1		(1) 建築計画のあらまし (2) 計画の進め方・計画の基本以上の一般住宅を例題として、進めていく。		
2	計画一般 2		(1) 計画の進め方・計画の基本以上の一般住宅を例題として、進めていく。		
3	計画一般 3		(1) 構造計画 (2) 設備計画 (3) 非難・防災計画以上の内容での計画を例に基本を理解できる。		
4	計画一般 4		(1) 高齢者・身体障害者のための計画・ユニバーサルデザイン以上の一般住宅を例題として、進めて理解できる。		
5	各部の計画 1		(1) 概要 (2) 高さに対する寸法 (3) 各室の所要床面積以上の寸法を実際に実測することができる。		
6	各部の計画 2		(1) 通行空間の寸法 a) 廊下幅 b) 出入口の幅 c) 階段・スロープの寸法、勾配 d) 扉の開き勝手が理解できる。		
7	各部の計画 3		(1) バリアフリーの寸法 (2) モジュール以上の寸法を実際に実測することで理解できる。		
8~10	構法・材料・生産		(1) 主体構造 (2) 建築材料 (3) 開口部 (4) 建築生産特に計画上に活かされなければならない、が理解できる。		
11	住宅		(1) 独立住宅 a) 配置計画 b) 平面計画 c) プランタイプ d) 各室計画 e) 住宅設備、が理解できる。		
12~14	平面計画演習		一般住宅の実際の課題を計画してみる。平面をまとめることができる。		
15	住宅平面計画総まとめ		設計計画として図面化できる。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築計画Ⅱ				
担当教員	井土 英樹		実務授業の有無		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	計画Ⅱは、(建築物) その中に暮らす人が安心して生活ができるためには、生活そのものへの追求と機能を重視した基本的な面と造形的な美しさを追及する面とを結び合わせて、演習も含め、授業を進めていく。				
学習目標 (到達目標)	集合住宅、商業施設等各種建築物の建築計画が理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築計画 著者：福田健策+高梨亮子 学芸出版社 補助教材：住まいの寸法・計画辞典 著者：岩井一幸・奥田宗幸 彰国社				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	集合住宅Ⅰ		(1) 集合住宅の分類 (2) 各種の住棟タイプ いくつかの例を示し、細部のわたり説明ができる。		
2	集合住宅Ⅱ		(1) 配置計画 (2) 住戸計画 (3) 共用部分 以上集合住宅が理解できる。		
3	住宅地計画		(1) 近隣住区理論 (2) 団地計画 (3) スプロール現象 いくつかの例を用い、理解できる。		
4	商業施設Ⅰ		(1) 事務所 a) 事務所の種類 b) 貸事務所の機能と構成 c) 平面計画と断面計画、これらの内容が理解できる。		
5	商業施設Ⅱ		c) 平面計画と断面計画 d) 事務室の計画 e) 設備 これらの内容が理解できる。		
6	商業施設Ⅲ		(1) 工場・倉庫 a) 計画方針 b) クリーンルーム いくつかの例を用い、理解できる。		
7	商業施設Ⅳ		(1) 百貨店・スーパーマーケット・一般店舗 a) 立地 b) 店舗計画 c) 売場計画、これらの内容が理解できる。		
8	商業施設Ⅴ		(1) 劇場・映画館 a) 客席計画 b) 舞台・映写室 c) ホワイエ これらの内容が理解できる。		
9	商業施設Ⅵ		(1) ホテル・寄宿舎 a) ホテル b) 寄宿舎 (2) 駐車場・駐輪場 これらの内容が理解できる。		
10～12	集合住宅 (平面計画演習)		集合住宅の課題条件を提示し、配置計画から平面計画をまとめる。		
13～15	商業施設 (平面計画演習)		商業施設の中のどれかを選択し、課題条件の中で平面をまとめる。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築計画Ⅲ				
担当教員	木下 俊明		実務授業の有無		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	計画Ⅲは、(建築物)その中に暮らす人が安心して生活ができるためには、生活そのものへの追求と機能を重視した基本的な面と造形的な美しさを追及する面とを結び合わせて、演習も含め、授業を進めていく。				
学習目標 (到達目標)	公共施設等の建築計画が理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築計画 著者：福田健策+高梨亮子 学芸出版社 補助教材：住まいの寸法・計画辞典 著者：岩井一幸・奥田宗幸 彰国社				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会施設 Ⅰ		(1) 小学校・中学校 a) 校地の位置 b) 配置計画 地域の学校を例に学び、参考とし、理解できる。		
2	社会施設 Ⅱ		c) 運営方式 d) 各部計画 c) 諸寸法 地域の学校を例に学び、参考とし、理解できる。		
3	社会施設 Ⅲ		(1) 幼稚園・保育園 a) 幼稚園と保育園の違い b) 立地 c) 配置計画と機能構成 d) 主要室の計画 地域の幼稚園、保育園を例に学び、参考とし、理解できる。		
4.5	社会施設 Ⅳ		(1) 病院・診療所 a) 病院の分類 b) 病院の構成 c) 一般計 画 d) 各部門 地域の病院、診療所を例に学び、参考とし、理解できる。		
6	社会施設 Ⅴ		(1) 老人福祉施設 a) 施設の種類 b) 在宅福祉 c) 一般計画 説明されたことがよく理解できる。		
7	社会施設 Ⅵ		(1) コミュニティ施設 a) 一般計画 説明されたことがよく理解できる。		
8	文化施設 Ⅰ		(1) 図書館 a) 図書館の種類 b) 機能構成 c) 収納 システム d) 平面計画、以上のことが理解できる。		
9	文化施設 Ⅱ		(1) 博物館・美術館 a) 機能構成 b) 展示計画 c) 収蔵・保管部分、例題を用いて、理解できる。		
10	文化施設 Ⅲ		(1) スポーツ施設(体育館) 地域のスポーツ施設を参考にし、理解できる。		
11~ 15	平面計画演習		社会施設の中のどれかを選択し、課題条件の中で平面をまとめる。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築設備				
担当教員	木下 俊明	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築設備は建築物と密接に関連している。人間の生活行動を、それぞれの分野ごとに詳細な検討を加えていくことで、理解が容易なものになる。そこで建築設備は、給排水、衛生、空調、電気設備など建築物を維持管理するのに必要な諸要素および、人間の活動に必須な各設備における具体的な事項を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	給水設備、電気設備等、建築にかかわる設備について理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築計画 編者：福田健作+高梨亮子 学芸出版社 補助教材： 図説建築用語事典 堀越喜与志 実教出版(株)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	給水設備 I	(1) 給水設備 a) 給水方式 それぞれの方式を具体的(図解)に説明、よって理解を深める。			
2	給水設備 II	b) 給水量 c) 給水設備機器 実物の設備機器をみて説明、よって理解を深める。			
3	給湯設備	(1) 給湯方式 (2) 給湯配管 (3) 加熱装置 実物の設備機器をみて説明、よって理解を深める。			
4	排水・衛生設備 I	(1) 排水の種類 (2) 排水の処理方式 (3) 排水の構成材 実物の設備機器をみて説明、よって理解を深める。			
5	排水・衛生設備 II	(1) トラップの封水破壊 (2) 排水弁 図解・実物材料を参考にし、理解を深める。			
6	排水・衛生設備 III	(1) 通気管(ベントパイプ)の設置 (2) 衛生器具 (3) し尿浄化槽 (4) 給排水・ガス設備記号、図解を参考に理解できる。			
7	電気設備 I	(1) 電気設備 a) 基礎知識、図解で示し理解ができる。			
8	電気設備 II	b) 配電 供給電圧・契約電力と供給電圧・高圧引込 以上図解を用い、理解できる。			
9	電気設備 III	(1) 屋内配線、図解・実物材料を用いて、理解を深める。			
10					
11	電気設備 IV	(1) 照明設備 a) 照明の条件 b) 照明方式 以上図解を用い、理解できる。			
12	電気設備 V	c) 光源 d) 照明設計 e) 照明器具の種類 f) 照明設備記号、屋内配線の記号、以上を図解を用い、理解ができる。			
13	搬送設備	(1) エレベーター (2) エスカレーター カタログを用い説明し、理解できる。			
14	総まとめ (参考の設備図で演習)	実際の設備図面を参考に理解を深める。 特に記号を理解できる。図面を読み取ることができる。			
15					
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築構造Ⅰ				
担当教員	木下 俊明		実務授業の有無	○	
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物がどのように成り立っているか、「成り立つ」ということは、いくつかの材料を組み立てて、一つの形をつくり上げることを意味している。つまり、建築構造では、建築物の各部分と全体が、どのような材料を用いて、どのように形づくられているか、また、なぜそのように形づくられるかをねらいとして学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	木構造について、理解し、軸組計算ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築構造 編者：福田健作+小杉哲也 学芸出版社 補助教材：図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版(株) オリジナル軸組み模型 s=1:20				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	木構造 Ⅰ		(1) 木構造の特徴 (2) 各部の構造 a) 基礎 具体例を示し、図解で学び、理解できる。		
2	木構造 Ⅱ		b) 土台 c) 柱 具体例を示し、図解で学び、柱の最小径が計算できる。		
3	木構造 Ⅲ		d) 胴差・梁・桁 軸組み模型を参考に、それぞれの役割を説明できる。		
4					
5	木構造 Ⅳ		e) 小屋組 和小屋・洋小屋(軸組み模型を参考に、説明できる。)		
6	木構造 Ⅴ		f) 床組 床組の方法(軸組み模型を参考に、説明できる。)		
7	木構造 Ⅵ		g) 真壁・大壁・間柱・貫・火打材 軸組み模型を参考に、それぞれの役割を説明できる。		
8	木構造 Ⅶ		h) 接合部 1) 継手、2) 仕口 実物を用い、それぞれの使用箇所が理解できる。		
9					
10	木構造 Ⅷ		i) 筋かい 軸組み模型を参考に、それぞれの役割を説明できる。		
11~ 15	木構造 軸組み計算演習		1) 簡単な平面図と立面図から、軸組み計算ができる。 2) 実際の一般住宅の軸組み計算演習 以上の内容を理解でき、筋かいの種類と箇所を選択できる。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築構造Ⅱ				
担当教員	木下 俊明	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物がどのように成り立っているか、「成り立つ」ということは、いくつかの材料を組み立てて、一つの形をつくり上げることを意味している。つまり、建築構造では、建築物の各部分と全体が、どのような材料を用いて、どのように形づくられているか、また、なぜそのように形づくられるかをねらいとして学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄筋構造等について建築構造が理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築構造 編者：福田健作+小杉哲也 学芸出版社 補助教材：図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版(株) オリジナル軸組み模型 s=1:20				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	木構造 (接合部金物)	a) 釘、ボルト、木ねじ 使用箇所と強度が説明できる。			
2	木構造 (部材の設計)	a) 引張材の設計b) 圧縮材の設計c) 曲げ材の設計d) せん断力 e) たわみ、それぞれの力が理解できる。			
3	木構造 (主要構造部以外の構造)	a) 階段 b) 外部仕上げ c) 屋根 d) 外壁 e) 内部仕上げ 基本的な仕上げ方法が理解できる。			
4	木構造 (枠組壁工法)	a) 接合金物 b) 土台及び基礎 c) 床 d) 壁 e) 小屋組 基本的な内容が理解できる。			
5	鉄筋コンクリート構造 I	a) 特徴 b) 構造形式 鉄筋コンクリートの特徴と形式が理解でき、説明ができる。			
6	鉄筋コンクリート構造 II	1. 部材の設計 a) 許容応力度 コンクリート、鉄筋、ヤング係数比が理解できる。			
7~9	鉄筋コンクリート構造 III	1. 「配筋の基本」例題を提示し理解する。 各部材の配筋基本を理解し、説明できる。			
10	鉄筋コンクリート構造 IV	1. 定着及び継手・鉄筋の空きとかぶり厚さ・ひび割れ・壁式工法・耐力壁・以上の基本が理解でき、説明できる。			
11	鉄骨構造 I	a) 特徴 b) 構造形式 鉄骨構造の特徴と形式が理解でき、説明ができる。			
12	鉄骨構造 II	1. 部材の設計 a) 許容応力度 各部材の基本的な応力が説明できる。			
13	鉄骨構造 III	1. 部材の接合部 a) 接合方法と種類 図解の理解と内容が理解できる。			
14					
15	その他の構造	a) 補強コンクリートブロック構造 b) SRC構造 c) プレストレストコンクリート構造。構造の基本を学び理解できる。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	構造力学Ⅰ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	力の三要素が明確でないと、力は決定できない。この基礎を学び、さらに力の種類①移動させる力、②回転させる力、③偶力のモーメントを建築における応力に置き換えて学ぶことがねらいである。				
学習目標 (到達目標)	建築にかかわる力学の基礎を理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築構造 編者：福田健作+小杉哲也 学芸出版社 補助教材：図説やさしい構造力学 著者：浅野清昭 学芸出版社				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	構造力学に必要な算術計算 Ⅰ		1) 分数、平方根、文字を含んだ式、方程式を学ぶ。 (力学の基礎になる内容をもう一度思い出し、理解できる。)		
2	構造力学に必要な算術計算 Ⅱ		2) 連立方程式、相似形、面積、練習問題 (力学の基礎になる内容をもう一度思い出し、理解できる。)		
3					
4	力の基礎 Ⅰ		1) 力の表現 2) 力の符号を例題を解きながら学ぶ。 (以上のことが理解でき、例題が解ける。)		
5	力の基礎 Ⅱ		1) 力の効果 2) 力の単位を例題を解きながら学ぶ。 (以上のことが理解でき、例題が解ける。)		
6					
7	力の基礎 Ⅲ		1) 力のモーメントとは 2) 力のモーメントの符号 3) 並行に並ぶ力の合力を学ぶ。(これらのことが理解でき、例題が解ける。)		
8	力の基礎 Ⅳ		1) 合力とは 2) 一点に作用する力の合力 3) 並行に並ぶ力の合力を学ぶ。(これらのことが理解でき、例題が解ける。)		
9	〃				
10	力の基礎 Ⅴ		1) 分布加重とは 2) 分布加重の合力を例題を解きながら学ぶ。(以上のことが理解でき、例題が解ける。)		
11	力の釣り合い		1) 力の釣り合いとは 2) 回転をともなう力の釣り合いを学ぶ。 (以上のことが理解でき、例題が解ける。)		
12					
13	反力 Ⅰ		1) 構造物の力学モデル 2) 構造物の支え方を例題を解き学ぶ。(以上のことが理解でき、例題が解ける。)		
14	反力 Ⅱ		1) 単純梁の反力 2) 集中荷重の場合 3) 分布荷重の場合 4) モーメント荷重の場合を学ぶ。 (以上のことが理解でき、例題が解ける。)		
15					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	構造力学Ⅱ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	力の三要素が明確でないと、力は決定できない。この基礎を学び、さらに力の種類①移動させる力、②回転させる力、③偶力のモーメントを建築における応力に置き換えて学ぶことがねらいである。				
学習目標 (到達目標)	建築にかかわる力学の応用を理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築構造 編者：福田健作+小杉哲也 学芸出版社 補助教材：図説やさしい構造力学 著者：浅野清昭 学芸出版社				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	片持ち梁の反力			1) 集中荷重の場合 2) 分布荷重の場合を例題を用いて学ぶ。(以上のことが理解できて、例題が解ける。)	
2	ラーメンの反力			1) 水平方向の力の場合 2) 鉛直方向の力の場合を例題を用いて学ぶ。(これらのことが理解でき、例題が解ける。)	
3	部材に生じる力の解説			1) 曲げモーメント 2) せん断力 3) 軸方向力を例題を用いて学ぶ。(これらのことが理解でき、例題が解ける。)	
4					
5	単純梁に生じる力			1) 集中荷重の場合 2) 分布荷重の場合 3) モーメント荷重の場合を例題を用いて学ぶ。(これらのことが理解できる。)	
6					
7	片持ち梁に生じる力			1) 集中荷重の場合 2) 分布荷重の場合を例題を用いて学ぶ。(以上のことが理解できて、例題が解ける。)	
8	知っていると便利な関係			1) 曲げモーメント図はせん断変形の形 2) せん断力のあたえは曲げモーメント図の傾き 3) 力のたし合わせ(以上のことが理解できて、例題が解ける。)	
9	部材に生じる力(実践編)			1) せん断力図を描く方法(矢印図法)を例題を用いて学ぶ。(以上のことが理解できて、例題が解ける。)	
10	曲げモーメント図の特徴			1) 曲げモーメント図を描く方法(スバナ化法・面積法)を例題を用いて学ぶ。(以上のことが理解できて、例題が解ける。)	
11	トラス			1) トラスの考え方 2) 接点法 3) 図解法 4) 切断法を練習問題を用いて学ぶ。(これらのことが理解できて、問題が解ける。)	
12	断面に関する数量			1) 図心 2) 断面2次モーメントを練習問題を用いて学ぶ。(これらのことが理解できて、例題が解ける。)	
13	応力度			1) 軸応力度 2) 曲げ応力度 3) せん断応力度 4) 許容応力度(これらのことが理解できて、例題が解ける。)	
14	座屈・たわみ			1) 座屈とは 2) 座屈荷重 3) たわみの求め方を練習問題を用いて学ぶ。(これらのことが理解できて、問題が解ける。)	
15	不静定構造の基礎			1) 不静定構造とは 2) 不静定構造の基礎的開放(これらのことが理解できて、例題が解ける。)	
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築施工 I						
担当教員	井土 英樹	実務授業の有無					
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施						
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	前期		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間		
授業概要、目的、授業の進め方	将来に関連する業務（施工者が正確で迅速かつ安全に、さらにローコスト）において知っておくべき最低の現場実践的な理解を目指す。						
学習目標（到達目標）	建築施工の基礎について理解できる。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築施工 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社 補助教材：図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版（株）						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	1	工事準備	1) 申請・届出・手続 2) 各調査 以上特に各調査については、安全確保の上で大切である。				
2	2	仮設工事 I	1) 仮設工事の要点 2) 仮設工事の種類 a) 共通仮設工事 b) 直接仮設工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。				
3	3	仮設工事 II	1) 仮囲い・仮設建築物等 2) 足場の種類 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。				
4	4	仮設工事 III	1) 足場の種類 2) 棧橋・仮設通路 3) 安全施設等 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。				
5	5	土工事 I	1) 地盤調査 a) ボーリング b) 原位置試験 c) 根切り d) 排水工法 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。				
6	6	土工事 II	1) 山止め工法 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。				
7	7	地業工事	1) 直接基礎地形 2) 地盤改良工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。				
8	8	基礎工事	1) 杭工事 a) 材料による分類 b) 工法による分類 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。				
9	9 10	施工計画	1) 施工計画 2) 工程計画 a) 工程表 以上の内容を理解し、工程表（ネットワーク）の日数が理解できる。				
11			11 12 13	施工管理	1) 現場管理 2) 安全管理 3) 材料管理 4) 品質管理 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
14	14 15	木工事			1) 材料 2) 木造の加工 3) 造作工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
15							
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%							
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験						

科目名	建築施工Ⅱ				
担当教員	井土 英樹	実務授業の有無			
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	将来に関連する業務（施工者が正確で迅速かつ安全に、さらにローコスト）において知っておくべき最低の現場実践的な理解を目指す。				
学習目標 (到達目標)	鉄筋、コンクリート、鉄骨等工事の施工について理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築施工 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社 補助教材：図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版（株）				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	鉄筋工事Ⅰ	1) 鉄筋の種類 2) 鉄筋の加工と組立 鉄筋の性質を学び、加工と組立の基本を理解できる。			
2	鉄筋工事Ⅱ	1) 鉄筋の定着 2) 継ぎ手の種類 特に鉄筋の継手は多種多様に約束事が多く、時間をかけて理解する。			
3					
4	型枠工事	1) 計画と設計 a) 基本計画 b) 型枠の設計 2) 型枠の材料 3) 組立 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。			
5					
6	コンクリートⅠ	1) 材料 2) 用語の説明 3) 調合 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。			
7	コンクリートⅡ	1) 製造 2) 運搬・打込・養生 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。			
8					
9	鉄骨工事Ⅰ	1) 材料 2) 工場作業 a) 工場製作 b) 切断 c) 穴あけ d) 曲げ加工 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。			
10	鉄骨工事Ⅱ	1) 接合 a) 普通ボルト接合 b) 高力ボルト接合 c) 溶接接合 d) 建方 e) 検査 f) 耐火被覆、これらが理解できる。			
11	防水工事	1) 防水の種類 2) メンブレン防水工事 3) シーリング工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。			
12	左官工事	1) 各種下地 2) 塗り工事 3) 吹付け工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。			
13	タイル工事・石工事	1) タイル工事 2) 石工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。			
14	塗装工事・ガラス工事	1) 種類と特性 2) 素地ごしらえ 3) 工法 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。			
15	内装工事・断熱工事・金属工事	1) 種類と特性 2) 素地ごしらえ 3) 工法 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築仕様Ⅰ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築に関係する材料の様々な性質を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	木材、コンクリート、金属について建築の材としての性質を理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築構造 編者：福田健作+小杉哲也 学芸出版社 補助教材：図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版(株)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	木材 Ⅰ		1) 木材の特徴 2) 木材の分類と用途 3) 木材の組織を学ぶ。 (これらのことが理解できて、説明ができる。)		
2	木材 Ⅱ		4) 木材の物理的特性 a) 含水率 b) 比重 c) 強度、 を学ぶ。(これらのことが理解できて、説明ができる。)		
3					
4	木材 Ⅲ		d) 木材の乾燥 e) 木材の収縮 f) 腐朽・虫害、を学ぶ。 (これらのことが理解できて、説明ができる。)		
5	木材 Ⅳ		5) 木質系材料 a) 合板 b) 集成材 c) 木質系ボード、を学 ぶ。(これらのことが理解できて、説明ができる。)		
6	コンクリート Ⅰ		1) セメント a) セメントの種類 b) セメントの製法 c) セメ ントの性質を学ぶ。(これらのことが理解できて、説明ができ る。)		
7	コンクリート Ⅱ		2) 骨材 a) 骨材の種類 b) 骨材の品質を学ぶ。 (これらのことが理解できて、説明ができる。)		
8	コンクリート Ⅲ		3) 水 4) コンクリート a) コンクリートの強度を学 ぶ。(これらのことが理解できて、説明ができる。)		
9	コンクリート Ⅳ		5) フレッシュコンクリートの性質 a) ワーカーピッチー b) スランプ値 c) 単位水量、単位セメント量 d) 細骨材料 e) 材料の分離 f) ブリージング g) 沈下を学ぶ。(これらのこと が理解できて、説明ができる。)		
10					
11	コンクリート Ⅴ		6) 固まったコンクリートの性質 a) 乾燥収縮 b) 中性化 c) 熱特 性 7) セメント・コンクリート製品を学ぶ。(これらのことが 理解できて、説明ができる。)		
12~ 15	金属材料 Ⅰ		1) 鋼材 a) 炭素鋼 b) 炭素鋼の応力度とひずみ度の関 係 c) 炭素の含有量 d) 熱 e) 熱処理 f) 鋼材の規格 g) 合金鋼 2) 非鉄金属 3) 腐食 (これらのことが理解できて、説明ができる。)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築仕様Ⅱ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築に関係する材料の様々な性質を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	石材、ガラス、陶磁器等について建築の材としての性質を理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築構造 編者：福田健作+小杉哲也 学芸出版社				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	石材		1) 自然石の種類 a) 火成岩・堆積岩・変成岩 2) 人造石の分類の特徴と使用箇所を学ぶ。(これらを理解できる。)		
2	ガラス		1) ガラスの種類と用途 a) 性質 b) 製品 c) ガラス加工品 d) 成形品ガラス、ガラス繊維、これらの特徴を学ぶ。		
3					
4	陶磁器類		1) タイルの分類 2) かわらの分類、及び用途を学ぶ。(これらが理解できる。)		
5					
6	高分子系材料		1) プラスチック 2) アスファルトの特徴と性質を学ぶ。(これらが理解できる。)		
7					
8	塗料		1) 塗料の種類と特徴を学ぶ。(これらが理解できる。)		
9					
10	接着剤		1) 主結合材の種類による分類を学ぶ。(どのような箇所に適するかが理解できる。)		
11	シーリング材・左官材料		1) シーリング材の分類 2) 左官材料の特徴 3) しっくいと石こうの特徴を学ぶ。(どのような箇所に適するかが理解できる。)		
12					
13	ボード類		1) 石こうボード 2) セメント系ボード 3) 木質系ボードの性質と特徴を学ぶ。(どのような箇所に適するかが理解できる。)		
14					
15	その他		1) ポリスチレンフォーム 2) 硬質ウレタンフォーム 3) ロックウール 4) グラスウール 5) ポリエチレンフィルム これらの特徴を学ぶ。(どのような箇所に適するかが理解できる。)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築製図Ⅰ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	建物を建てるに、図面は（建築主・設計者・施工者）の共同作業であり、コミュニケーションの重要な手段である。よって図面には、内容や情報を正確に伝えることが求められる。そのためにも、まずは図面の書き方の約束事を修得しなければならない。				
学習目標 (到達目標)	在来軸組木造住宅の平面図、床伏図を完成させる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	初学者の建築講座「建築製図」 著者：瀬川康秀 市ヶ谷出版				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1.2	製図用具・機器のガイド 演習Ⅰ	1) 用具・機器を使いながら説明する。3コマ（1コマ90分）（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
3～ 6	製図の基本 演習Ⅱ	1) 線の種類と使い分け 2) 線の引き方 3) 文字・記号・スケール（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
7～ 10	製図の基本 演習Ⅲ	1) スケールと図面表現 2) 図面の役割と種類（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
11～ 14	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅰ	1) 平面図の書き方 S=1:100（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
15～ 18	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅱ	2) 平面図の書き方 S=1:50（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
19～ 22	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅲ	3) 基礎伏図の書き方 S=1:50（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
23～ 26	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅳ	4) 1階床伏図の書き方 S=1:50（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
27～ 30	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅴ	4) 2階床伏図・1階小屋伏図の書き方 S=1:50（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築設計Ⅰ				
担当教員	長谷川 英夫、井土 英樹	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120時間
授業概要、目的、授業の進め方	設計の役割は建築の知識を建物として「考えたものを図面として表現する」まとめあげるための手段である。したがって参考図を読み取る力、表現できる力を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	木造建築（木造軸組工法の設計が理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	初学者の建築講座「建築製図」 著者：瀬川康秀 市ヶ谷出版				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～ 8	木造建築物（木造軸組工法） 専用住宅Ⅰ		1) 配置計画・配置図 敷地と建物の関係を一般科目で学んだことを応用し、考えた配置図とする。		
9～ 24	木造建築物（木造軸組工法） 専用住宅Ⅱ		2) 平面計画・平面図 建築主の要求に様々な条件を持ちそれを平面計画でまとめる力を養う。（基本的なまとめができる。）		
25～ 40	木造建築物（木造軸組工法） 専用住宅Ⅲ		3) 屋根の形状と構造計画 平面図を基に屋根の形状を考える基本的な屋根を参考にまとめる。		
41～ 48	木造建築物（木造軸組工法） 専用住宅Ⅳ		4) 断面図・立面図 高さ関係を学び表現する。開口部の位置を正確に表現する。		
49～ 60	木造建築物（木造軸組工法） 専用住宅Ⅴ		5) 矩計図 構造計画で部材の寸法を学びそれを詳細で表現する。（理解すると同時に表現できる。）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%			作図は理解ができないと作業が進まない、だから理解することの重要性を身につけてほしい。		
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	設計実習Ⅰ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面の授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180時間
授業概要、目的、授業の進め方	設計の役割は建築の知識を建物として「考えたものを図面として表現する」まとめ上げる手段である。ここでは前期で学んだことを更に構造のしくみを具体化し、軸組模型を作成することにより学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	在来軸組木造住宅の軸組模型を完成する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	初学者の建築講座「建築製図」 著者：瀬川康秀 市ヶ谷出版				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～ 6	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅰ		1) 基礎伏図 S=1:50を作成 3コマ(1コマ90分) (説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
7～ 18	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅱ		2) 基礎伏図を基に、S=1:20で軸組模型の基礎部分を作る。 (説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
19～ 24	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅲ		3) 1階床伏図 S=1:50を作成 (説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
25～ 36	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅳ		4) 1階床伏図を基に、S=1:20で軸組模型の床部分を作る。(説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
37～ 48	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅴ		5) 2階床伏図・1階小屋伏図 S=1:50を作成 (説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
49～ 54	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅵ		6) 2階小屋伏図 S=1:50を作成 (説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
55～ 60	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅶ		7) 軸組図 S=1:50を作成 (説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
61～ 90	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅷ		5)、6)、7)、の図面を基に、軸組模型を完成する。 (説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	設計実習 II				
担当教員	木下 俊明	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120時間
授業概要、目的、授業の進め方	集合住宅とはを計画の授業から学び、その理解のもとで具体的に建築物として一定の規模を想定して考え、図面で表現してみる。				
学習目標 (到達目標)	鉄筋コンクリート造の集合住宅について構造を理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：「図解」建築の構造と構法 著者：岩下陽一・古本勝則・磯野重浩 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1～4	集合住宅（鉄筋コンクリート構造）概要	1) 鉄筋コンクリート構法の特徴と構造形式の種類、原理を図面から学ぶ。（以上のことが理解できる。）			
5～20	集合住宅（鉄筋コンクリート構造） 演習 1	1) ラーメン構造による集合住宅の平面計画を学ぶ。以上のことを理解し1階平面、基準階平面、設備階平面を計画し基本設計としてまとめてみる。以上のことがまとめられる。（基本プラン）			
21～32	集合住宅（鉄筋コンクリート構造） 演習 2	1) 基本プランをもとに、実施設計（平面図）S=1：100で作成する。（以上のことを修正しながら完成できる。）			
33～40	集合住宅（鉄筋コンクリート構造） 演習 3	1) 断面図・立面図 S=1：100を作成する。（以上のことを修正しながら完成できる。）			
41～52	集合住宅（鉄筋コンクリート構造） 演習 4	1) 矩計図 S=1：30を作成する。（構造を理解し、高さ関係と仕上げにいたるまで理解できる。）			
53～60	集合住宅（鉄筋コンクリート構造） 演習 5	1) 構造図、（各伏図） S=1：100で描いてみる。（構造が理解できて表現できる。）			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で27年の実務経験				

科目名	設計実習 III				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	福祉施設を計画の授業から学び、構造は一般構造から鉄骨構造を学び、その理解のもとで更に具体的に建築物として一定の規模を想定して考え、図面で表現してみる。				
学習目標 (到達目標)	鉄筋構造について構法、構造を理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：「図解」建築の構造と構法 著者：岩下陽一・古本勝則・磯野重浩 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1.2	老人福祉施設（鉄骨構造）概要	1) 鉄骨構法の特徴と構造形式の種類、原理を参考図面から学ぶ。			
3～ 10	老人福祉施設（鉄骨構造） 演習 1	1) 鉄骨構造による、老人福祉施設の平面計画を学ぶ。 以上のことを理解し1階平面、基準階平面、設備階平面を計画し基本設計としてまとめてみる。 以上のことがまとめられる。（基本プラン）			
11～ 16	老人福祉施設（鉄骨構造） 演習 2	1) 基本プランをもとに、実施設計（平面図）S=1：100で作成する。 （以上のことを修正しながら完成できる。）			
17～ 20	老人福祉施設（鉄骨構造） 演習 3	1) 断面図・立面図 S=1：100を作成する。 （以上のことを修正しながら完成できる。）			
21～ 26	老人福祉施設（鉄骨構造） 演習 4	1) 矩計図 S=1：30を作成する。 （構造を理解し、高さ関係と仕上げにいたるまで理解できる。）			
27～ 30	老人福祉施設（鉄骨構造） 演習 5	1) 構造図、（各伏図） S=1：100で描いてみる。 （構造が理解できて表現できる。）			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で27年の実務経験				

科目名	設計実習 III				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	公共施設「図書館」を計画の授業から学び、構造は一般構造から学び、その理解のもとで更に具体的に建築物として一定の規模を想定して考え、図面で表現してみる。				
学習目標 (到達目標)	公共施設（図書館）の構造を理解し、図面で表現できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：「図解」建築の構造と構法 著者：岩下陽一・古本勝則・磯野重浩 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1.2	街の図書館（自由構造）概要	1) 構法の特徴と構造形式の種類、原理を参考図面から学ぶ。（以上のことが理解できる。）			
3～ 10	街の図書館（自由構造） 演習 1	1) 構造による、図書館施設の平面計画を学ぶ。 以上のことを理解し1階平面、基準階平面、設備階平面を計画し基本設計としてまとめてみる。 以上のことがまとめられる。（基本プラン）			
11～ 16	街の図書館（自由構造） 演習 2	1) 基本プランを基に、実施設計（平面図）S=1:100で作成する。 （以上のことを修正しながら完成できる。）			
17～ 20	街の図書館（自由構造） 演習 3	1) 断面図・立面図 S=1:100を作成する。 （以上のことを修正しながら完成できる。）			
21～ 26	街の図書館（自由構造） 演習 4	1) 矩計図 S=1:30を作成する。 （構造を理解し、高さ関係と仕上げに至るまで理解できる。）			
27～ 30	街の図書館（自由構造） 演習 5	1) 構造図、（各伏図）S=1:100で描いてみる。 （構造が理解できて表現できる。）			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で27年の実務経験				

科目名	規矩術				
担当教員	井端 寿伊	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	8	時間数	120時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本の伝統建築（匠の技）を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	規矩術の基礎を身に着け、作業ができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院 初心者のための さしがねの基本と実技 著者：本間正直 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～ 60	棒すみ製作、丸太組 特に材料の選択を身に付けること。		社寺建築の部分的な部材を基本に技術を学ぶ。 グループごとに組み手を作成し、最終的に一つの形に完成させる。 特に丁寧な仕事及要求される。		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
後期全体の演習を通して「正確・理解度・完成度」を評価する。 評価割合 技術評価 70% 理解度評価 20% 努力評価 10%		・刃物を使用する作業のため、教員の指導に従うこと。 ・長袖、長ズボンを着用すること。 ・適時、水分補給をすること。			
実務経験教員の経歴	大工として、建築現場で30年の実務経験				

科目名	建築造形演習				
担当教員	木下 俊明	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物を完成する前に表現する方法は立体表現が欠かせない。イメージしたことが相手に分かりやすく伝える方法でもある。そこでスケッチを含め表現方法を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	建築物のスケッチ、パースの作成ができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：初学者の建築講座 建築製図 著者：瀬川康秀 市ヶ谷出版社				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	建築透視図法 I		1) 概要説明と平行透視図法の基本を学ぶ。		
2	演習 (1)		(簡単な立法体を平行透視図法で描ける。)		
3	建築透視図法 I		1) 平行透視図法で簡単な建物を表現してみる。		
4	演習 (2)		(以上のことが理解できて、表現できる。)		
5	建築透視図法 I		1) 有角透視図法の基本を学ぶ。		
6	演習 (3)		(簡単な立法体を有角透視図法で描ける。)		
7					
8	建築透視図法 I		1) 有角透視図法で簡単な建物を表現してみる。		
9	演習 (4)		(以上のことが理解できて、表現できる。)		
10					
11	建築透視図法 I		1) 等測図 (アイソメ) と軸測図 (アクソメ) を学ぶ。		
12	演習 (5)		(簡単な形を描ける。)		
13					
14	添景を描く		1) 添景のスケッチを学ぶ。		
15			(色鉛筆等を使って描いてみる。)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・表現」					
評価割合 各課題評価 90%					
出席状況 10%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築 C A D				
担当教員	井土 英樹	実務授業の有無			
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築生産の流れの中で、コンピューターの活用は現代社会では不可欠なものとなっている。手書きの製図作業で学習したJIS製図通則等建築図面の知識を活かし、汎用2次元C A Dを利用した図面の精度の向上と効率の良い図面作成及び編集、管理を修得する。				
学習目標 (到達目標)	2次元C A Dを利用し、図面を作成できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書名：Jw_cadで学ぶ建築製図の基本 著者：櫻井良明 出版社：(株)エクスナレッジ				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1.2	C A D (Jw_cad) の基本操作 1 ガイダンス	CAD画面各部の名称と役割、C A Dソフト特有のレイヤ、コマンド等 テキスト、教員の説明を基に実習し基本操作を修得する。			
3.4	C A D (Jw_cad) の基本操作 2 作図、編集、管理	簡単な図形の作図、編集を行い基本操作の習得を確実にする。 用紙の設定とスケールに注意し作図を行う。			
5.6	C A D (Jw_cad) による建築製図 1 木造住宅2階建て (既存設計図面)	配置図、1階平面図の作成 設計図面を基に実際にC A D図面を実習により作成する。 レイヤーの概念を修得する			
7.8	C A D (Jw_cad) による建築製図 2 木造住宅2階建て	2階平面図の作成 2階平面図の作成に伴い既に作成済の1階平面図データの 利用、既存データの編集による効率化を修得する			
9.10	C A D (Jw_cad) による建築製図 2 木造住宅2階建て	断面図の作成 断面図の作成に伴い既存データの利用を考える 既存データの編集による効率化を修得する			
11.12	C A D (Jw_cad) による建築製図 3 木造住宅2階建て	立面図の作成 立面図の作成に伴い既存データの利用を考える 既存データの編集による効率化を修得する			
13.14	C A D (Jw_cad) による建築製図 4 木造住宅2階建て	矩計図の作成 矩形図の作成に伴い既存データの利用を考える 既存データの編集による効率化を修得する			
15.16	C A D (Jw_cad) による建築製図 5 木造住宅2階建て	各種詳細図の作成 詳細図の作成に伴い既存データの利用を考える 既存データの編集による効率化を修得する			
17.18	C A D (Jw_cad) による建築製図 6 木造住宅2階建て	展開図の作成 展開図の作成に伴い既存データの利用を考える 既存データの編集による効率化を修得する			
19～ 30	C A D (Jw_cad) による建築製図 7-11 木造住宅2階建て	各種伏図、軸組図、各設備図等の作成 各図の作成に伴い既存データの利用を考える 既存データの編集による効率化を修得する 各種図面の整合性に注意し図面作成、保存、管理を修得する			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
後期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確性・レイアウト・スピード・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で27年の実務経験				

科目名	建築実技Ⅰ				
担当教員	小浜 美晴、大倉 健一	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	8	時間数	240時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本の伝統建築（匠の技）を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				
学習目標（到達目標）	道具を正しく理解し、作業ができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1～ 16	大工道具の説明（概要） 演習(1) 刃物を研ぐ、削る、切る	1) 大工道具について、実技を入れて学ぶ。 (以上のことが理解できて道具を基本的に扱うことができる。)			
17～ 32	作業台を作る 演習(2) 削る、切る、寸法を墨で表示する サシガネを使う。	1) 木材について、（資材としての木材・立木と木材・「あて」材・年輪と節・製材による木の変形・製材・資材の乾燥） 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。			
33～ 48	道具箱を作る 演習(3) 削る、切る、寸法を墨で表示する サシガネを使う。	1) 木材について、（資材としての木材・立木と木材・「あて」材・年輪と節・製材による木の変形・製材・資材の乾燥） 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。			
49～ 80	共同で小屋組の一部を作る 演習(4) 墨付けの基本と加工の正確さ	1) 道具の正しい使い方とその応用を学ぶ。 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。			
81～ 96	額を作る 演習(5) どれだけの正確さで加工できるか	1) 道具の正しい使い方とその応用を学ぶ。 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。			
97～ 120	二法転びの台を作る 演習(6) どれだけの正確さで加工できるか	1) 道具の正しい使い方とその応用を学ぶ。寸法線の正しい表示。 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%		・刃物を使用する作業のため、教員の指導に従うこと。 ・長袖、長ズボンを着用すること。 ・適時、水分補給をすること。			
実務経験教員の経歴	大工、施工管理として、建築現場で30年の実務経験				

科目名	建築実技Ⅱ				
担当教員	小浜 美晴、大倉 健一	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	8	時間数	240時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本の伝統建築（匠の技）を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	継ぎ手、仕口について理解し、その製作ができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1～ 32	四方転びの木箱を作る 演習(1)	1) 指矩の使い方、墨付けの大切さを学ぶ。 (四方転びの難しさを体験し、完成できる。)			
33～ 56	継手・仕口を作る 演習(2)	1) 設計実習での軸組模型製作、1階床部分での土台・柱関係の継手と仕口を実物で作成する。 (以上のことが理解でき、作成することができる。)			
57～ 120	継手・仕口を作る 演習(3)	1) 設計実習での軸組模型製作、2階部分、小屋組の継手と仕口を実物で作成する。 (以上のことが理解でき、作成することができる。)			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
後期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%		<ul style="list-style-type: none"> ・刃物を使用する作業のため、教員の指導に従うこと。 ・長袖、長ズボンを着用すること。 ・適時、水分補給をすること。 			
実務経験教員の経歴	大工、施工管理として、建築現場で30年の実務経験				

科目名	建築実技Ⅲ				
担当教員	井端 寿伊、小埜原 敏男	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	20	時間数	360時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本の伝統建築（匠の技）を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。*厨子の修復他				
学習目標 (到達目標)	実際の建築物にかかわり、指示に従った作業を行える				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1～ 180	(佐渡) 社寺建築の修復 実践技術を学ぶ。	江戸時代の厨子他を図面の作図と合わせて修復する。 古来の技術を学び、それを理解し、棟梁の指導の基で伝統技術を身に付ける。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
前期15週を修復作業とし、個々の理解度と作業能力を週ごとに評価する。 評価割合 技術評価 70% 理解度評価 20% 努力評価 10%		<ul style="list-style-type: none"> 刃物を使用する作業のため、教員の指導に従うこと。 長袖、長ズボンを着用すること。 適時、水分補給をすること。 			
実務経験教員の経歴	大工として、建築現場で30年の実務経験				

科目名	建築実技Ⅲ				
担当教員	井端 寿伊、小埜原 敏男	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	20	時間数	240時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本の伝統建築（匠の技）を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。*厨子の修復他				
学習目標 (到達目標)	実際の建築物にかかわり、指示に従った作業を行える				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1～ 120	(佐渡)社寺建築の修復 実践技術を学ぶ。	江戸時代の厨子他を図面の作図と合わせて修復する。 古来の技術を学び、それを理解し、棟梁の指導の基で伝統技術を身に付ける。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
前期15週を修復作業とし、個々の理解度と作業能力を週ごとに評価する。 評価割合 技術評価 70% 理解度評価 20% 努力評価 10%		<ul style="list-style-type: none"> 刃物を使用する作業のため、教員の指導に従うこと。 長袖、長ズボンを着用すること。 適時、水分補給をすること。 			
実務経験教員の経歴	大工として、建築現場で30年の実務経験				

科目名	建築実技Ⅳ				
担当教員	井土 英樹、佐川 博文		実務授業の有無	○	
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	28	時間数	480時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本の伝統建築（匠の技）を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				
学習目標（到達目標）	継ぎ手、仕口などを活用し、実践的な作業を行える				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院 初心者のための さしがねの基本と実技 著者：本間正直 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～240	社寺建築への応用		小規模木造（伝統建築）例：茶室を建築する。 又は、社寺建築の修復を民間から受けて実施する。 方法：日本古来の伝統技術で作成する。 目標：工程を決め、丁寧かつ正確に完成すること。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
作業全体の応用技術を総合評価する。 評価割合 技術評価 70% 理解度評価 20% 努力評価 10%			・刃物を使用する作業のため、教員の指導に従うこと。 ・長袖、長ズボンを着用すること。 ・適時、水分補給をすること。		
実務経験教員の経歴	大工として、建築現場で30年の実務経験				

科目名	建築実技Ⅳ				
担当教員	井土 英樹、佐川 博文	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築大工学科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	28	時間数	360時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本の伝統建築（匠の技）を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				
学習目標（到達目標）	継ぎ手、仕口などを活用し、実践的な作業を行える				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院 初心者のための さしがねの基本と実技 著者：本間正直 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～180	社寺建築への応用		小規模木造（伝統建築）例：茶室を建築する。 又は、社寺建築の修復を民間から受けて実施する。 方法：日本古来の伝統技術で作成する。 目標：工程を決め、丁寧かつ正確に完成すること。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
作業全体の応用技術を総合評価する。 評価割合 技術評価 70% 理解度評価 20% 努力評価 10%			・刃物を使用する作業のため、教員の指導に従うこと。 ・長袖、長ズボンを着用すること。 ・適時、水分補給をすること。		
実務経験教員の経歴	大工として、建築現場で30年の実務経験				

伝統建築・大学科

科目名	建築環境工学				
担当教員	木下 俊明	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築環境工学は、建築物を取り巻く外部環境としての自然気象や都市気候について、また人体の生理にかかわる室内環境について学び、建築と人間の健康を考える。				
学習目標 (到達目標)	建築にかかわる環境を理解し、建築と人間の健康について理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：図説 建築環境 編者：松原斎樹、長野和雄 学芸出版社				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	建築環境	(1) 風土と建築 (2) 都市環境と建築 日本全体の風土・地域の風土など例を示し、理解できる。			
2	外部気候	(1) 気温 (2) 湿度 (3) 風 (4) 雨・雪が建築にどのような影響があるかを理解できる。			
3	室内気候	(1) 温熱四要素 (2) 温熱環境の快適指標、例題を解きながら理解できる。			
4	伝熱	(1) 伝導・対流・放射 (2) 熱貫流 (3) 断熱 (4) 熱容量、例題を解きながら理解できる。			
5	結露	(1) 空気線図 (2) 結露の防止 例題を解きながら理解できる。			
6	換気と通風 1	(1) 空気 (大気) の成分 (2) 空気の汚染物質の種類 (3) 換気、の目的を理解できる。			
7	換気と通風 2	(1) 換気方式 (2) 換気の法的規制 (3) 通風、 例題を解きながら理解できる。			
8	日照	(1) 光効果 (2) 太陽の位置と時刻 (3) 可照・日照 人間の健康との関係が理解でき、建築との関係も理解できる。			
9	日影 1	(1) 日影曲線 (2) 建物の形状と配置 (3) 建物開口部 (窓) からの日照 (4) 日影規制、例題を解きながら理解できる。			
10	日影 2	日影線図の例題を解く。			
11	日射	(1) 太陽定数 (2) 方位別壁面の直達日射量 (3) 日照調節 以上が確実に理解できる。			
12	採光 1	(1) 光の単位 (2) 視覚 (3) 昼光率、例題を解きながら理解できる。			
13	採光 2	(1) 採光方法 (2) 法的規制 (3) 天空照度、以上が確実に理解できる。			
14	色彩	(1) 色の三属性 (2) 色彩の心理的效果 (3) 色彩調整 以上が確実に理解できる。			
15	音環境	(1) 音の速さ (2) 音の三要素 (3) 音の進み方 (4) 音の強さのレベル (5) 音の大きさのレベル (6) 音の減衰 (7) 遮音と吸音 (8) 騒音 (9) 室内音響、以上のことが例題を含めて理解できる。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築法規Ⅰ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築法規は、その建築物を使用・利用する人の生命と健康等を守るための規定—単体規定と集団規定とがある。本講義は建築を学ぶ上で、他の建築科目に基本事項として関係する講義である。したがって健康の知識と同時に法律の用語など難しい内容を図解を用い、理解できる内容で進める。これらの基礎知識を修得することにより、他の建築科目の基本的な役割と建築における社会の役割を説明する。				
学習目標 (到達目標)	建築の基礎知識と役割について理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築法規 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社 補助教材：建築基準法 法令集				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	概説 建築基準法1条			建築の法律と学習目標について（建築の法律が社会的にどのような役割をはたしているのか説明できる。）	
2	国の重要建築物について			建築物に関する用語（1）建築物（2）準用工作物（3）法の適用が除外される建築物などについて説明できる。	
3	用語の定義			（4）特殊建築物についての法規制が一般建築物より厳しい理由を説明できる。	
4	用語の定義			（5）建築設備（6）居室（7）主要構造部とは（これらの用語を的確に なぜかを理解し説明できる。）	
5	用語の定義			（8）構造耐力上主要な部分・別科目（建築構造）とあわせて理解し説明ができる。	
6	用語の定義			（9）延焼のおそれのある部分・防火関係の内容とからめて理解し説明ができる。	
7	用語の定義			（10）延焼のおそれのある部分・防火関係の内容とからめて理解し説明ができ、例題を用いて計算できる。	
8	面積・高さ等の算定 1・一般用語			（1）建築（2）大規模の修繕（3）大規模の模様替（4）敷地 以上の用語を理解し説明ができる。	
9	面積・高さ等の算定 1・一般用語			（5）地盤面（6）地階 以上の用語を理解し説明ができる。	
10	面積・高さ等の算定 2・面積算定			（1）敷地面積（2）建築面積（3）床面積 以上の面積計算を参考例を用い、正しい答えを求めることができる。	
11	面積・高さ等の算定 2・面積算定			（4）延べ面積（5）築造面積 以上の面積計算を参考例を用い、正しい答えを求めることができる。	
12	面積・高さ等の算定 3・高さ等の算定			（1）建築物の高さ（2）軒の高さ（3）階数（4）避難階 以上の（1）で道路斜線の計算例を用い、理解できる。	
13	道路			（1）道路の定義（2）敷地と道路の関係 敷地面積などで道路が関係してくる。このこととの関連が理解できる。	
14	建築手続 1・用語の定義			（1）建築主（2）設計者（3）工事施工者（4）建築主事 （5）特定行政庁 建築の計画から完成まで携わる関係者が理解できる。	
15	建築手続 1・用語の定義			（6）指定確認検査機関（7）建築審査会（8）建築確認 （9）許可（10）認可 建築に携わる関係機関が理解できる。	
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築法規 II				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築法規は、その建築物を使用・利用する人の生命と健康等を守るための規定—単体規定と集団規定とがある。本講義は建築を学ぶ上で、他の建築科目に基本事項として関係する講義である。したがって健康の知識と同時に法律の用語など難しい内容を図解を用い、理解できる内容で進める。これらの基礎知識を修得することにより、他の建築科目の基本的な役割と建築における社会の役割を説明する。				
学習目標 (到達目標)	建築の基礎知識と役割について理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築法規 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社 補助教材：建築基準法 法令集				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	一般構造・設備規定	(1) 敷地の衛生及び安全(2) 居室の採光(3) 有効面積の算定方法以上の採光計算を、例題を用いて理解できる。			
2	一般構造・設備規定	(3) 採光有効面積の算定方法以上の採光計算を、例題を用いて理解できる。			
3	一般構造・設備規定	(4) 居室の換気(5) 特殊建築物の居室の換気(6) 「換気設備を設けるべき調理室等」の設ける換気設備(7) 換気設備が理解できる。			
4	一般構造・設備規定	(8) 居室の天井の高さ(算定) (9) 居室の床の高さ及び防湿方法(10) 地階における住宅等の居室。が理解できる。			
5	一般構造・設備規定	1) 長屋又は共同住宅の各戸の塀壁 2) 石綿その他の物質の対策 以上の対策と材料を覚える。			
6	一般構造・設備規定	1) 換気設備の義務付け、2) 天井裏等の制限、3) 令第20条の9に基づく居室の認定、が理解できる。			
7	一般構造・設備規定 (階段)	1) 踊場の幅、けあげ・路面の寸法 2) 踊場の位置及び踏幅、手摺り等 3) 階段に代わる傾斜路 4) 特殊の用途に専用する階段			
8	一般構造・設備規定 (便所)	1) 便所 2) 便所の採光及び換気 3) 特殊建築物及び特定区域の便所の構造 4) 合併処理浄化槽の構造、以上が理解できる。			
9	一般構造・設備規定 (その他の設備)	1) 避雷設備 2) 給排水設備 3) 昇降機設備、が理解できる。			
10	防火 ・1	1) 大規模の建築物の主要構造部 2) 法22条指定区域内の建築制限 3) 大規模の木造建築物等の外壁等、以上が理解できる。			
11	防火 ・2	1) 木造建築物等の防火壁・塀壁等 2) 耐火建築物又は準耐火建築物 3) 防火区画等 4) 建築物に設ける煙突、が理解できる。			
12	避難施設等 ・1	1) 無窓居室 2) 適用の範囲 3) 廊下・直通階段 4) 避難階段 5) 各種出口・屋外広場等、が理解できる。			
13	避難施設等 ・2	1) 排煙設備 2) 非常用の照明装置 3) 非常用の進入口 4) 敷地内の避難上及び消化上必要な通路等、が理解できる。			
14	避難施設等 ・3 構造強度 ・1	1) 避難上の安全の検証 2) 内装制限、1) 構造設計の原則 以上の内容が理解できる。			
15	構造強度 ・2	1) 許容応力度等の計算、荷重及び外力、許容応力度と材料強度、構造部材等、が理解できる。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築法規Ⅲ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築法規は、その建築物を使用・利用する人の生命と健康等を守るための規定—単体規定と集団規定とがある。本講義は建築を学ぶ上で、他の建築科目に基本事項として関係する講義である。したがって健康の知識と同時に法律の用語など難しい内容を図解を用い、理解できる内容で進める。これらの基礎知識を修得することにより、他の建築科目の基本的な役割と建築における社会の役割を説明する。				
学習目標 (到達目標)	建築の基礎知識と役割について理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築法規 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社 補助教材：建築基準法 法令集				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	用途地域	1) 用途地域 2) 特別用途地域 3) 特定用途制限地域 4) 住居系用途地域における自動車車庫の規制、を理解できる。			
2	面積制限 1	1)容積率、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。			
3	面積制限 2	2)容積率、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。			
4	面積制限 3	1) 建蔽率、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。			
5	建築物の高さ 1	1) 道路斜線制限 2) 隣地斜線制限、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。			
6	建築物の高さ 2	1) 北側斜線 2) 天空率 3) 日影による中高層の建築物の高さ制限、が理解できる。			
7	防火地域・準防火地域	防火地域・準防火地域の内容が理解できる。			
8	基準法のその他の規定	1) 建築協定 2) 地区計画等の区域 3) その他 これらの内容が理解できる。			
9	建築士法	1) 目的 2) 定義 3) 設計、工事監理 4) 免許・登録 5) その他 これらの内容が理解できる。			
10	建設業法	1) 目的 2) 定義 3) 建設業の許可 4) その他 これらの内容が理解できる。			
11	その他の法律	1) 消防法			
12		2) 都市計画法			
13		3) 住宅の品質確保の促進等に関する法律（品確法）			
14		4)高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）			
15		5) 建築物の耐震改修の促進に関する法律			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築法規 IV				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	この授業の狙いの1つは、建築基準法関係法令集を徹底活用し、様々な法令に関しその根拠条文の構成を理解すること。2つめは最新の条文改定部分を認識することである。				
学習目標 (到達目標)	建築の基礎知識と役割について理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築法規 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社 補助教材：建築基準法 法令集（総合資格学院）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	建築法規の概要・用語の定義		建築法規の歴史・役割・体系及び建築物に関する用語の定義 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
2	面積・高さ等の算定		面積・高さの算定、地盤面、地階、階数の定義 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
3	建築手続きに関する用語、		建築、大規模の修繕、大規模の模様替えの定義、行政機関の役割 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
4	単体規定（一般構造）		敷地の衛生と安全、採光、換気等の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
5	〃（構造強度）		建築物の構造耐力、荷重と外力等の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
6	〃（防火と内装制限）		大規模建築物の主要構造部、法22条区域の建築物の防火等の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
7	〃（避難施設等）		避難規程の適用の範囲、避難経路、避難階段等の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
8	〃（建築設備）		給排水、空調和、エレベーター・エスカレーター、避雷設備の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
9	集団規定（道路と敷地）		道路の定義、接道義務、道路内の建築制限、私道の変更・廃止等の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
10	〃（用途地域）		用途地域の指定、用途の制限の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
11	〃（面積制限）		容積率、建ぺい率、外壁の後退距離の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
12	〃（建築物の高さ）		絶対高さの制限、斜線制限（道路、隣地、北側）、日影規制の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
13	〃（防火地域・準防火地域）		防火地域、準防火地域内の建築制限の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
14	確認申請と手続規定		確認と許可、工事の着工と完了（届出、検査）、違反建築物に対する措置の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
15	関連法令（建築士法・建設業法・その他）		都市計画法、消防法、バリアフリー法、住宅品質確保法等の規定 教科書等の事例を基に、法令集の条文を直接読んで理解する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築計画Ⅰ				
担当教員	井土 英樹		実務授業の有無		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	計画Ⅰは、(建築物) その中に暮らす人が安心して生活ができるためには、生活そのものへの追求と機能を重視した基本的な面と造形的な美しさを追及する面とを結び合わせて、授業を進めていく。				
学習目標 (到達目標)	構造計画、設備計画、避難・防災計画等を理解し、図面化できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築計画 著者：福田健策+高梨亮子 学芸出版社 補助教材：住まいの寸法・計画辞典 著者：岩井一幸・奥田宗幸 彰国社				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	計画一般 1		(1) 建築計画のあらまし (2) 計画の進め方・計画の基本以上の一般住宅を例題として、進めていく。		
2	計画一般 2		(1) 計画の進め方・計画の基本以上の一般住宅を例題として、進めていく。		
3	計画一般 3		(1) 構造計画 (2) 設備計画 (3) 非難・防災計画以上の内容での計画を例に基本を理解できる。		
4	計画一般 4		(1) 高齢者・身体障害者のための計画・ユニバーサルデザイン以上の一般住宅を例題として、進めて理解できる。		
5	各部の計画 1		(1) 概要 (2) 高さに対する寸法 (3) 各室の所要床面積以上の寸法を実際に実測することができる。		
6	各部の計画 2		(1) 通行空間の寸法 a) 廊下幅 b) 出入口の幅 c) 階段・スロープの寸法、勾配 d) 扉の開き勝手が理解できる。		
7	各部の計画 3		(1) バリアフリーの寸法 (2) モジュール以上の寸法を実際に実測することで理解できる。		
8~10	構法・材料・生産		(1) 主体構造 (2) 建築材料 (3) 開口部 (4) 建築生産特に計画上に活かされなければならない、が理解できる。		
11	住宅		(1) 独立住宅 a) 配置計画 b) 平面計画 c) プランタイプ d) 各室計画 e) 住宅設備、が理解できる。		
12~14	平面計画演習		一般住宅の実際の課題を計画してみる。平面をまとめることができる。		
15	住宅平面計画総まとめ		設計計画として図面化できる。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築計画Ⅱ				
担当教員	井土 英樹		実務授業の有無		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	計画Ⅱは、(建築物) その中に暮らす人が安心して生活ができるためには、生活そのものへの追求と機能を重視した基本的な面と造形的な美しさを追及する面とを結び合わせて、演習も含め、授業を進めていく。				
学習目標 (到達目標)	集合住宅、商業施設等各種建築物の建築計画が理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築計画 著者：福田健策+高梨亮子 学芸出版社 補助教材：住まいの寸法・計画辞典 著者：岩井一幸・奥田宗幸 彰国社				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	集合住宅Ⅰ		(1) 集合住宅の分類 (2) 各種の住棟タイプ いくつかの例を示し、細部のわり説明ができる。		
2	集合住宅Ⅱ		(1) 配置計画 (2) 住戸計画 (3) 共用部分 以上集合住宅が理解できる。		
3	住宅地計画		(1) 近隣住区理論 (2) 団地計画 (3) スプロール現象 いくつかの例を用い、理解できる。		
4	商業施設Ⅰ		(1) 事務所 a) 事務所の種類 b) 貸事務所の機能と構成 c) 平面計画と断面計画、これらの内容が理解できる。		
5	商業施設Ⅱ		c) 平面計画と断面計画 d) 事務室の計画 e) 設備 これらの内容が理解できる。		
6	商業施設Ⅲ		(1) 工場・倉庫 a) 計画方針 b) クリーンルーム いくつかの例を用い、理解できる。		
7	商業施設Ⅳ		(1) 百貨店・スーパーマーケット・一般店舗 a) 立地 b) 店舗計画 c) 売場計画、これらの内容が理解できる。		
8	商業施設Ⅴ		(1) 劇場・映画館 a) 客席計画 b) 舞台・映写室 c) ホワイエ これらの内容が理解できる。		
9	商業施設Ⅵ		(1) ホテル・寄宿舎 a) ホテル b) 寄宿舎 (2) 駐車場・駐輪場 これらの内容が理解できる。		
10～12	集合住宅 (平面計画演習)		集合住宅の課題条件を提示し、配置計画から平面計画をまとめる。		
13～15	商業施設 (平面計画演習)		商業施設の中のどれかを選択し、課題条件の中で平面をまとめる。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築計画Ⅲ				
担当教員	木下 俊明		実務授業の有無		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	計画Ⅲは、(建築物)その中に暮らす人が安心して生活ができるためには、生活そのものへの追求と機能を重視した基本的な面と造形的な美しさを追及する面とを結び合わせて、演習も含め、授業を進めていく。				
学習目標 (到達目標)	公共施設等の建築計画が理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築計画 著者：福田健策+高梨亮子 学芸出版社 補助教材：住まいの寸法・計画辞典 著者：岩井一幸・奥田宗幸 彰国社				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会施設 Ⅰ		(1) 小学校・中学校 a) 校地の位置 b) 配置計画 地域の学校を例に学び、参考とし、理解できる。		
2	社会施設 Ⅱ		c) 運営方式 d) 各部計画 c) 諸寸法 地域の学校を例に学び、参考とし、理解できる。		
3	社会施設 Ⅲ		(1) 幼稚園・保育園 a) 幼稚園と保育園の違い b) 立地 c) 配置計画と機能構成 d) 主要室の計画 地域の幼稚園、保育園を例に学び、参考とし、理解できる。		
4.5	社会施設 Ⅳ		(1) 病院・診療所 a) 病院の分類 b) 病院の構成 c) 一般計 画 d) 各部門 地域の病院、診療所を例に学び、参考とし、理解できる。		
6	社会施設 Ⅴ		(1) 老人福祉施設 a) 施設の種類 b) 在宅福祉 c) 一般計画 説明されたことがよく理解できる。		
7	社会施設 Ⅵ		(1) コミュニティ施設 a) 一般計画 説明されたことがよく理解できる。		
8	文化施設 Ⅰ		(1) 図書館 a) 図書館の種類 b) 機能構成 c) 収納 システム d) 平面計画、以上のことが理解できる。		
9	文化施設 Ⅱ		(1) 博物館・美術館 a) 機能構成 b) 展示計画 c) 収蔵・保管部分、例題を用いて、理解できる。		
10	文化施設 Ⅲ		(1) スポーツ施設(体育館) 地域のスポーツ施設を参考にし、理解できる。		
11~ 15	平面計画演習		社会施設の中のどれかを選択し、課題条件の中で平面をまとめる。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築設備				
担当教員	木下 俊明		実務授業の有無	○	
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築設備は建築物と密接に関連している。人間の生活行動を、それぞれの分野ごとに詳細な検討を加えていくことで、理解が容易なものになる。そこで建築設備は、給排水、衛生、空調、電気設備など建築物を維持管理するのに必要な諸要素および、人間の活動に必須な各設備における具体的な事項を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	給水設備、電気設備等、建築にかかわる設備について理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築計画 編者：福田健作+高梨亮子 学芸出版社 補助教材：図説建築用語事典 堀越喜与志 実教出版(株)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	給水設備 I		(1) 給水設備 a) 給水方式 それぞれの方式を具体的(図解)に説明、よって理解を深める。		
2	給水設備 II		b) 給水量 c) 給水設備機器 実物の設備機器をみて説明、よって理解を深める。		
3	給湯設備		(1) 給湯方式 (2) 給湯配管 (3) 加熱装置 実物の設備機器をみて説明、よって理解を深める。		
4	排水・衛生設備 I		(1) 排水の種類 (2) 排水の処理方式 (3) 排水の構成材 実物の設備機器をみて説明、よって理解を深める。		
5	排水・衛生設備 II		(1) トラップの封水破壊 (2) 排水弁 図解・実物材料を参考にし、理解を深める。		
6	排水・衛生設備 III		(1) 通気管(ベントパイプ)の設置 (2) 衛生器具 (3) し尿浄化槽 (4) 給排水・ガス設備記号、図解を参考に理解できる。		
7	電気設備 I		(1) 電気設備 a) 基礎知識、図解で示し理解ができる。		
8	電気設備 II		b) 配電 供給電圧・契約電力と供給電圧・高圧引込 以上図解を用い、理解できる。		
9	電気設備 III		(1) 屋内配線、図解・実物材料を用いて、理解を深める。		
10					
11	電気設備 IV		(1) 照明設備 a) 照明の条件 b) 照明方式 以上図解を用い、理解できる。		
12	電気設備 V		c) 光源 d) 照明設計 e) 照明器具の種類 f) 照明設備記号、屋内配線の記号、以上を図解を用い、理解ができる。		
13	搬送設備		(1) エレベーター (2) エスカレーター カタログを用い説明し、理解できる。		
14	総まとめ (参考の設備図で演習)		実際の設備図面を参考に理解を深める。 特に記号を理解できる。図面を読み取ることができる。		
15					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築構造Ⅰ				
担当教員	木下 俊明	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物がどのように成り立っているか、「成り立つ」ということは、いくつかの材料を組み立てて、一つの形をつくり上げることを意味している。つまり、建築構造では、建築物の各部分と全体が、どのような材料を用いて、どのように形づくられているか、また、なぜそのように形づくられるかをねらいとして学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	木構造について、理解し、軸組計算ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築構造 編者：福田健作+小杉哲也 学芸出版社 補助教材：図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版(株) オリジナル軸組み模型 s=1:20				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	木構造 Ⅰ		(1) 木構造の特徴 (2) 各部の構造 a) 基礎 具体例を示し、図解で学び、理解できる。		
2	木構造 Ⅱ		b) 土台 c) 柱 具体例を示し、図解で学び、柱の最小径が計算できる。		
3	木構造 Ⅲ		d) 胴差・梁・桁 軸組み模型を参考に、それぞれの役割を説明できる。		
4					
5	木構造 Ⅳ		e) 小屋組 和小屋・洋小屋(軸組み模型を参考に、説明できる。)		
6	木構造 Ⅴ		f) 床組 床組の方法(軸組み模型を参考に、説明できる。)		
7	木構造 Ⅵ		g) 真壁・大壁・間柱・貫・火打材 軸組み模型を参考に、それぞれの役割を説明できる。		
8	木構造 Ⅶ		h) 接合部 1) 継手、2) 仕口 実物を用い、それぞれの使用箇所が理解できる。		
9					
10	木構造 Ⅷ		i) 筋かい 軸組み模型を参考に、それぞれの役割を説明できる。		
11~ 15	木構造 軸組み計算演習		1) 簡単な平面図と立面図から、軸組み計算ができる。 2) 実際の一般住宅の軸組み計算演習 以上の内容を理解でき、筋かいの種類と箇所を選択できる。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築構造Ⅱ				
担当教員	木下 俊明		実務授業の有無	○	
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物がどのように成り立っているか、「成り立つ」ということは、いくつかの材料を組み立てて、一つの形をつくり上げることを意味している。つまり、建築構造では、建築物の各部分と全体が、どのような材料を用いて、どのように形づくられているか、また、なぜそのように形づくられるかをねらいとして学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄筋構造等について建築構造が理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築構造 編者：福田健作+小杉哲也 学芸出版社 補助教材：図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版(株) オリジナル軸組み模型 s=1:20				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	木構造 (接合部金物)		a) 釘、ボルト、木ねじ 使用箇所と強度が説明できる。		
2	木構造 (部材の設計)		a) 引張材の設計b) 圧縮材の設計c) 曲げ材の設計d) せん断力 e) たわみ、それぞれの力が理解できる。		
3	木構造 (主要構造部以外の構造)		a) 階段 b) 外部仕上げ c) 屋根 d) 外壁 e) 内部仕上げ 基本的な仕上げ方法が理解できる。		
4	木構造 (枠組壁工法)		a) 接合金物 b) 土台及び基礎 c) 床 d) 壁 e) 小屋組 基本的な内容が理解できる。		
5	鉄筋コンクリート構造 I		a) 特徴 b) 構造形式 鉄筋コンクリートの特徴と形式が理解でき、説明ができる。		
6	鉄筋コンクリート構造 II		1. 部材の設計 a) 許容応力度 コンクリート、鉄筋、ヤング係数比が理解できる。		
7~ 9	鉄筋コンクリート構造 III		1. 「配筋の基本」例題を提示し理解する。 各部材の配筋基本を理解し、説明できる。		
10	鉄筋コンクリート構造 IV		1. 定着及び継手・鉄筋の空まとかぶり厚さ・ひび割れ・壁式工法・耐力壁・以上の基本が理解でき、説明できる。		
11	鉄骨構造 I		a) 特徴 b) 構造形式 鉄骨構造の特徴と形式が理解でき、説明ができる。		
12	鉄骨構造 II		1. 部材の設計 a) 許容応力度 各部材の基本的な応力が説明できる。		
13 14	鉄骨構造 III		1. 部材の接合部 a) 接合方法と種類 図解の理解と内容が理解できる。		
15	その他の構造		a) 補強コンクリートブロック構造 b) SRC構造 c) プレストレストコンクリート構造。構造の基本を学び理解できる。		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	構造力学Ⅰ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	力の三要素が明確でないと、力は決定できない。この基礎を学び、さらに力の種類①移動させる力、②回転させる力、③偶力のモーメントを建築における応力に置き換えて学ぶことがねらいである。				
学習目標 (到達目標)	建築にかかわる力学の基礎を理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築構造 編者：福田健作+小杉哲也 学芸出版社 補助教材：図説やさしい構造力学 著者：浅野清昭 学芸出版社				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	構造力学に必要な算術計算 Ⅰ		1) 分数、平方根、文字を含んだ式、方程式を学ぶ。 (力学の基礎になる内容をもう一度思い出し、理解できる。)		
2	構造力学に必要な算術計算 Ⅱ		2) 連立方程式、相似形、面積、練習問題 (力学の基礎になる内容をもう一度思い出し、理解できる。)		
3					
4	力の基礎 Ⅰ		1) 力の表現 2) 力の符号を例題を解きながら学ぶ。 (以上のことが理解でき、例題が解ける。)		
5	力の基礎 Ⅱ		1) 力の効果 2) 力の単位を例題を解きながら学ぶ。 (以上のことが理解でき、例題が解ける。)		
6					
7	力の基礎 Ⅲ		1) 力のモーメントとは 2) 力のモーメントの符号 3) 並行に並ぶ力の合力を学ぶ。(これらのことが理解でき、例題が解ける。)		
8	力の基礎 Ⅳ		1) 合力とは 2) 一点に作用する力の合力 3) 並行に並ぶ力の合力を学ぶ。(これらのことが理解でき、例題が解ける。)		
9	〃				
10	力の基礎 Ⅴ		1) 分布加重とは 2) 分布加重の合力を例題を解きながら学ぶ。(以上のことが理解でき、例題が解ける。)		
11	力の釣り合い		1) 力の釣り合いとは 2) 回転をともなう力の釣り合いを学ぶ。 (以上のことが理解でき、例題が解ける。)		
12					
13	反力 Ⅰ		1) 構造物の力学モデル 2) 構造物の支え方を例題を解き学ぶ。(以上のことが理解でき、例題が解ける。)		
14	反力 Ⅱ		1) 単純梁の反力 2) 集中荷重の場合 3) 分布荷重の場合 4) モーメント荷重の場合を学ぶ。 (以上のことが理解でき、例題が解ける。)		
15					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	構造力学Ⅱ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	力の三要素が明確でないと、力は決定できない。この基礎を学び、さらに力の種類①移動させる力、②回転させる力、③偶力のモーメントを建築における応力に置き換えて学ぶことがねらいである。				
学習目標 (到達目標)	建築にかかわる力学の応用を理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築構造 編者：福田健作+小杉哲也 学芸出版社 補助教材：図説やさしい構造力学 著者：浅野清昭 学芸出版社				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	片持ち梁の反力		1) 集中荷重の場合 2) 分布荷重の場合を例題を用いて学ぶ。(以上のことが理解できて、例題が解ける。)		
2	ラーメンの反力		1) 水平方向の力の場合 2) 鉛直方向の力の場合を例題を用いて学ぶ。(これらのことが理解でき、例題が解ける。)		
3	部材に生じる力の解説		1) 曲げモーメント 2) せん断力 3) 軸方向力を例題を用いて学ぶ。(これらのことが理解でき、例題が解ける。)		
4					
5	単純梁に生じる力		1) 集中荷重の場合 2) 分布荷重の場合 3) モーメント荷重の場合を例題を用いて学ぶ。(これらのことが理解できる。)		
6					
7	片持ち梁に生じる力		1) 集中荷重の場合 2) 分布荷重の場合を例題を用いて学ぶ。(以上のことが理解できて、例題が解ける。)		
8	知っていると便利な関係		1) 曲げモーメント図はせん断変形の形 2) せん断力のあたえは曲げモーメント図の傾き 3) 力のたし合わせ(以上のことが理解できて、例題が解ける。)		
9	部材に生じる力(実践編)		1) せん断力図を描く方法(矢印図法)を例題を用いて学ぶ。(以上のことが理解できて、例題が解ける。)		
10	曲げモーメント図の特徴		1) 曲げモーメント図を描く方法(スバナ化法・面積法)を例題を用いて学ぶ。(以上のことが理解できて、例題が解ける。)		
11	トラス		1) トラスの考え方 2) 接点法 3) 図解法 4) 切断法を練習問題を用いて学ぶ。(これらのことが理解できて、問題が解ける。)		
12	断面に関する数量		1) 図心 2) 断面2次モーメントを練習問題を用いて学ぶ。(これらのことが理解できて、例題が解ける。)		
13	応力度		1) 軸応力度 2) 曲げ応力度 3) せん断応力度 4) 許容応力度(これらのことが理解できて、例題が解ける。)		
14	座屈・たわみ		1) 座屈とは 2) 座屈荷重 3) たわみの求め方を練習問題を用いて学ぶ。(これらのことが理解できて、問題が解ける。)		
15	不静定構造の基礎		1) 不静定構造とは 2) 不静定構造の基礎的開放(これらのことが理解できて、例題が解ける。)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築施工Ⅰ				
担当教員	井土 英樹	実務授業の有無			
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	将来に関連する業務（施工者が正確で迅速かつ安全に、さらにローコスト）において知っておくべき最低の現場実践的な理解を目指す。				
学習目標（到達目標）	建築施工の基礎について理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築施工 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社 補助教材：図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版（株）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	工事準備		1) 申請・届出・手続 2) 各調査 以上特に各調査については、安全確保の上で大切である。		
2	仮設工事Ⅰ		1) 仮設工事の要点 2) 仮設工事の種類 a) 共通仮設工事 b) 直接仮設工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
3	仮設工事Ⅱ		1) 仮囲い・仮設建築物等 2) 足場の種類 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
4	仮設工事Ⅲ		1) 足場の種類 2) 棧橋・仮設通路 3) 安全施設等 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
5	土工Ⅰ		1) 地盤調査 a) ボーリング b) 原位置試験 c) 根切り d) 排水工法 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
6	土工Ⅱ		1) 山止め工法 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
7	地業工事		1) 直接基礎地形 2) 地盤改良工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
8	基礎工事		1) 杭工事 a) 材料による分類 b) 工法による分類 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
9	施工計画		1) 施工計画 2) 工程計画 a) 工程表 以上の内容を理解し、工程表（ネットワーク）の日数が理解できる。		
10					
11	施工管理		1) 現場管理 2) 安全管理 3) 材料管理 4) 品質管理 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
12					
13					
14	木工事		1) 材料 2) 木造の加工 3) 造作工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
15					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築施工 II				
担当教員	井土 英樹	実務授業の有無			
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	将来に関連する業務（施工者が正確で迅速かつ安全に、さらにローコスト）において知っておくべき最低の現場実践的な理解を目指す。				
学習目標 (到達目標)	鉄筋、コンクリート、鉄骨等工事の施工について理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築施工 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社 補助教材：図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版（株）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	鉄筋工事 I		1) 鉄筋の種類 2) 鉄筋の加工と組立 鉄筋の性質を学び、加工と組立の基本を理解できる。		
2	鉄筋工事 II		1) 鉄筋の定着 2) 継ぎ手の種類		
3			特に鉄筋の継手は多種多様に約束事が多く、時間をかけて理解する。		
4	型枠工事		1) 計画と設計 a) 基本計画 b) 型枠の設計 2) 型枠の材料 3) 組立		
5			以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
6	コンクリート I		1) 材料 2) 用語の説明 3) 調合 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
7	コンクリート II		1) 製造 2) 運搬・打込・養生		
8			以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
9	鉄骨工事 I		1) 材料 2) 工場作業 a) 工場製作 b) 切断 c) 穴あけ d) 曲げ加工 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
10	鉄骨工事 II		1) 接合 a) 普通ボルト接合 b) 高力ボルト接合 c) 溶接接合 d) 建方 e) 検査 f) 耐火被覆、これらが理解できる。		
11	防水工事		1) 防水の種類 2) メンブレン防水工事 3) シーリング工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
12	左官工事		1) 各種下地 2) 塗り工事 3) 吹付け工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
13	タイル工事・石工事		1) タイル工事 2) 石工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
14	塗装工事・ガラス工事		1) 種類と特性 2) 素地ごしらえ 3) 工法 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
15	内装工事・断熱工事・金属工事		1) 種類と特性 2) 素地ごしらえ 3) 工法 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築仕様Ⅰ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築に関係する材料の様々な性質を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	木材、コンクリート、金属について建築の材としての性質を理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築構造 編者：福田健作+小杉哲也 学芸出版社 補助教材：図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版(株)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	木材Ⅰ		1) 木材の特徴 2) 木材の分類と用途 3) 木材の組織を学ぶ。 (これらのことが理解できて、説明ができる。)		
2	木材Ⅱ		4) 木材の物理的特性 a) 含水率 b) 比重 c) 強度、 を学ぶ。(これらのことが理解できて、説明ができる。)		
3					
4	木材Ⅲ		d) 木材の乾燥 e) 木材の収縮 f) 腐朽・虫害、を学ぶ。 (これらのことが理解できて、説明ができる。)		
5	木材Ⅳ		5) 木質系材料 a) 合板 b) 集成材 c) 木質系ボード、を学 ぶ。(これらのことが理解できて、説明ができる。)		
6	コンクリートⅠ		1) セメント a) セメントの種類 b) セメントの製法 c) セメ ントの性質を学ぶ。(これらのことが理解できて、説明ができ る。)		
7	コンクリートⅡ		2) 骨材 a) 骨材の種類 b) 骨材の品質を学ぶ。 (これらのことが理解できて、説明ができる。)		
8	コンクリートⅢ		3) 水 4) コンクリート a) コンクリートの強度を学 ぶ。(これらのことが理解できて、説明ができる。)		
9	コンクリートⅣ		5) フレッシュコンクリートの性質 a) ワーカービリティ b) スランプ値 c) 単位水量、単位セメント量 d) 細骨材料 e) 材料の分離 f) ブリージング g) 沈下を学ぶ。(これらのこと が理解できて、説明ができる。)		
10					
11	コンクリートⅤ		6) 固まったコンクリートの性質 a) 乾燥収縮 b) 中性化 c) 熱特 性 7) セメント・コンクリート製品を学ぶ。(これらのことが 理解できて、説明ができる。)		
12~ 15	金属材料Ⅰ		1) 鋼材 a) 炭素鋼 b) 炭素鋼の応力度とひずみ度の関 係 c) 炭素の含有量 d) 熱 e) 熱処理 f) 鋼材の規格 g) 合金鋼 2) 非鉄金属 3) 腐食 (これらのことが理解できて、説明ができる。)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築仕様Ⅱ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築に関係する材料の様々な性質を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	石材、ガラス、陶磁器等について建築の材としての性質を理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：専門士課程 建築構造 編者：福田健作+小杉哲也 学芸出版社				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	石材		1) 自然石の種類 a) 火成岩・堆積岩・変成岩 2) 人造石の分類の特徴と使用箇所を学ぶ。(これらを理解できる。)		
2	ガラス		1) ガラスの種類と用途 a) 性質 b) 製品 c) ガラス加工品 d) 成形品ガラス、ガラス繊維、これらの特徴を学ぶ。		
3					
4	陶磁器類		1) タイルの分類 2) かわらの分類、及び用途を学ぶ。(これらが理解できる。)		
5					
6	高分子系材料		1) プラスチック 2) アスファルトの特徴と性質を学ぶ。(これらが理解できる。)		
7					
8	塗料		1) 塗料の種類と特徴を学ぶ。(これらが理解できる。)		
9					
10	接着剤		1) 主結合材の種類による分類を学ぶ。(どのような箇所に適するかが理解できる。)		
11	シーリング材・左官材料		1) シーリング材の分類 2) 左官材料の特徴 3) しっくいと石こうの特徴を学ぶ。(どのような箇所に適するかが理解できる。)		
12					
13	ボード類		1) 石こうボード 2) セメント系ボード 3) 木質系ボードの性質と特徴を学ぶ。(どのような箇所に適するかが理解できる。)		
14					
15	その他		1) ポリスチレンフォーム 2) 硬質ウレタンフォーム 3) ロックウール 4) グラスウール 5) ポリエチレンフィルム これらの特徴を学ぶ。(どのような箇所に適するかが理解できる。)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。 評価割合 中間試験 15% 期末試験 80% 出席状況 5%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築製図Ⅰ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	建物を建てるに、図面は（建築主・設計者・施工者）の共同作業であり、コミュニケーションの重要な手段である。よって図面には、内容や情報を正確に伝えることが求められる。そのためにも、まずは図面の書き方の約束事を修得しなければならない。				
学習目標 (到達目標)	在来軸組木造住宅の平面図、床伏図を完成させる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	初学者の建築講座「建築製図」 著者：瀬川康秀 市ヶ谷出版				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1.2	製図用具・機器のガイド 演習Ⅰ	1) 用具・機器を使いながら説明する。3コマ（1コマ90分）（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
3～ 6	製図の基本 演習Ⅱ	1) 線の種類と使い分け 2) 線の引き方 3) 文字・記号・スケール（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
7～ 10	製図の基本 演習Ⅲ	1) スケールと図面表現 2) 図面の役割と種類（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
11～ 14	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅰ	1) 平面図の書き方 S=1:100（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
15～ 18	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅱ	2) 平面図の書き方 S=1:50（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
19～ 22	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅲ	3) 基礎伏図の書き方 S=1:50（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
23～ 26	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅳ	4) 1階床伏図の書き方 S=1:50（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
27～ 30	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅴ	4) 2階床伏図・1階小屋伏図の書き方 S=1:50（説明されたことが理解でき、実践できる。）			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	建築設計Ⅰ				
担当教員	長谷川 英夫、井土 英樹	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120時間
授業概要、目的、授業の進め方	設計の役割は建築の知識を建物として「考えたものを図面として表現する」まとめあげるための手段である。したがって参考図を読み取る力、表現できる力を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	木造建築（木造軸組工法の設計が理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	初学者の建築講座「建築製図」 著者：瀬川康秀 市ヶ谷出版				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1～ 8	木造建築物（木造軸組工法） 専用住宅Ⅰ	1) 配置計画・配置図 敷地と建物の関係を一般科目で学んだことを応用し、考えた配置図とする。			
9～ 24	木造建築物（木造軸組工法） 専用住宅Ⅱ	2) 平面計画・平面図 建築主の要求に様々な条件を持ちそれを平面計画でまとめる力を養う。（基本的なまとめができる。）			
25～ 40	木造建築物（木造軸組工法） 専用住宅Ⅲ	3) 屋根の形状と構造計画 平面図を基に屋根の形状を考える基本的な屋根を参考にまとめる。			
41～ 48	木造建築物（木造軸組工法） 専用住宅Ⅳ	4) 断面図・立面図 高さ関係を学び表現する。開口部の位置を正確に表現する。			
49～ 60	木造建築物（木造軸組工法） 専用住宅Ⅴ	5) 矩計図 構造計画で部材の寸法を学びそれを詳細で表現する。（理解すると同時に表現できる。）			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%		作図は理解ができないと作業が進まない、だから理解することの重要性を身につけてほしい。			
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	設計実習Ⅰ				
担当教員	長谷川 英夫	実務授業の有無	○		
授業形態	対面の授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180時間
授業概要、目的、授業の進め方	設計の役割は建築の知識を建物として「考えたものを図面として表現する」まとめ上げる手段である。ここでは前期で学んだことを更に構造のしくみを具体化し、軸組模型を作成することにより学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	在来軸組木造住宅の軸組模型を完成する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	初学者の建築講座「建築製図」 著者：瀬川康秀 市ヶ谷出版				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～ 6	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅰ		1) 基礎伏図 S=1:50を作成 3コマ(1コマ90分) (説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
7～ 18	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅱ		2) 基礎伏図を基に、S=1:20で軸組模型の基礎部分を作る。 (説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
19～ 24	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅲ		3) 1階床伏図 S=1:50を作成 (説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
25～ 36	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅳ		4) 1階床伏図を基に、S=1:20で軸組模型の床部分を作る。(説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
37～ 48	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅴ		5) 2階床伏図・1階小屋伏図 S=1:50を作成 (説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
49～ 54	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅵ		6) 2階小屋伏図 S=1:50を作成 (説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
55～ 60	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅶ		7) 軸組図 S=1:50を作成 (説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
61～ 90	「専用住宅」在来軸組木造2階建て 演習Ⅷ		5)、6)、7)、の図面を基に、軸組模型を完成する。 (説明されたことが理解でき、作成することができる。)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で37年の実務経験				

科目名	設計実習 II				
担当教員	木下 俊明	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120時間
授業概要、目的、授業の進め方	集合住宅とはを計画の授業から学び、その理解のもとで具体的に建築物として一定の規模を想定して考え、図面で表現してみる。				
学習目標 (到達目標)	鉄筋コンクリート造の集合住宅について構造を理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：「図解」建築の構造と構法 著者：岩下陽一・古本勝則・磯野重浩 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1～4	集合住宅（鉄筋コンクリート構造）概要	1) 鉄筋コンクリート構法の特徴と構造形式の種類、原理を図面から学ぶ。（以上のことが理解できる。）			
5～20	集合住宅（鉄筋コンクリート構造） 演習 1	1) ラーメン構造による集合住宅の平面計画を学ぶ。以上のことを理解し1階平面、基準階平面、設備階平面を計画し基本設計としてまとめてみる。以上のことがまとめられる。（基本プラン）			
21～32	集合住宅（鉄筋コンクリート構造） 演習 2	1) 基本プランをもとに、実施設計（平面図）S=1：100で作成する。（以上のことを修正しながら完成できる。）			
33～40	集合住宅（鉄筋コンクリート構造） 演習 3	1) 断面図・立面図 S=1：100を作成する。（以上のことを修正しながら完成できる。）			
41～52	集合住宅（鉄筋コンクリート構造） 演習 4	1) 矩計図 S=1：30を作成する。（構造を理解し、高さ関係と仕上げにいたるまで理解できる。）			
53～60	集合住宅（鉄筋コンクリート構造） 演習 5	1) 構造図、（各伏図） S=1：100で描いてみる。（構造が理解できて表現できる。）			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で27年の実務経験				

科目名	設計実習 III				
担当教員	木下 俊明	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	福祉施設を計画の授業から学び、構造は一般構造から鉄骨構造を学び、その理解のもとで更に具体的に建築物として一定の規模を想定して考え、図面で表現してみる。				
学習目標 (到達目標)	鉄筋構造について構法、構造を理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：「図解」建築の構造と構法 著者：岩下陽一・古本勝則・磯野重浩 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1.2	老人福祉施設（鉄骨構造）概要	1) 鉄骨構法の特徴と構造形式の種類、原理を参考図面から学ぶ。			
3～ 10	老人福祉施設（鉄骨構造） 演習 1	1) 鉄骨構造による、老人福祉施設の平面計画を学ぶ。 以上のことを理解し1階平面、基準階平面、設備階平面を計画し基本設計としてまとめてみる。 以上のことがまとめられる。（基本プラン）			
11～ 16	老人福祉施設（鉄骨構造） 演習 2	1) 基本プランをもとに、実施設計（平面図）S=1：100で作成する。 （以上のことを修正しながら完成できる。）			
17～ 20	老人福祉施設（鉄骨構造） 演習 3	1) 断面図・立面図 S=1：100を作成する。 （以上のことを修正しながら完成できる。）			
21～ 26	老人福祉施設（鉄骨構造） 演習 4	1) 矩計図 S=1：30を作成する。 （構造を理解し、高さ関係と仕上げにいたるまで理解できる。）			
27～ 30	老人福祉施設（鉄骨構造） 演習 5	1) 構造図、（各伏図） S=1：100で描いてみる。 （構造が理解できて表現できる。）			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で27年の実務経験				

科目名	設計実習 III				
担当教員	木下 俊明		実務授業の有無	○	
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	公共施設「図書館」を計画の授業から学び、構造は一般構造から学び、その理解のもとで更に具体的に建築物として一定の規模を想定して考え、図面で表現してみる。				
学習目標 (到達目標)	公共施設（図書館）の構造を理解し、図面で表現できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：「図解」建築の構造と構法 著者：岩下陽一・古本勝則・磯野重浩 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1.2	街の図書館（自由構造）概要		1) 構法の特徴と構造形式の種類、原理を参考図面から学ぶ。（以上のことが理解できる。）		
3～ 10	街の図書館（自由構造） 演習 1		1) 構造による、図書館施設の平面計画を学ぶ。 以上のことを理解し1階平面、基準階平面、設備階平面を計画し基本設計としてまとめてみる。 以上のことがまとめられる。（基本プラン）		
11～ 16	街の図書館（自由構造） 演習 2		1) 基本プランを基に、実施設計（平面図）S=1：100で作成する。 （以上のことを修正しながら完成できる。）		
17～ 20	街の図書館（自由構造） 演習 3		1) 断面図・立面図 S=1：100を作成する。 （以上のことを修正しながら完成できる。）		
21～ 26	街の図書館（自由構造） 演習 4		1) 矩計図 S=1：30を作成する。 （構造を理解し、高さ関係と仕上げに至るまで理解できる。）		
27～ 30	街の図書館（自由構造） 演習 5		1) 構造図、（各伏図）S=1：100で描いてみる。 （構造が理解できて表現できる。）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で27年の実務経験				

科目名	規矩術				
担当教員	井端 寿伊	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	8	時間数	120時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本の伝統建築（匠の技）を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	規矩術の基礎を身に着け、作業ができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院 初心者のための さしがねの基本と実技 著者：本間正直 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～ 60	棒すみ製作、丸太組 特に材料の選択を身に付けること。		社寺建築の部分的な部材を基本に技術を学ぶ。 グループごとに組み手を作成し、最終的に一つの形に完成させる。 特に丁寧な仕事及要求される。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
後期全体の演習を通して「正確・理解度・完成度」を評価する。 評価割合 技術評価 70% 理解度評価 20% 努力評価 10%			・刃物を使用する作業のため、教員の指導に従うこと。 ・長袖、長ズボンを着用すること。 ・適時、水分補給をすること。		
実務経験教員の経歴	大工として、建築現場で30年の実務経験				

科目名	建築造形演習				
担当教員	木下 俊明		実務授業の有無	○	
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物を完成する前に表現する方法は立体表現が欠かせない。イメージしたことが相手に分かりやすく伝える方法でもある。そこでスケッチを含め表現方法を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	建築物のスケッチ、パースの作成ができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：初学者の建築講座 建築製図 著者：瀬川康秀 市ヶ谷出版社				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	建築透視図法 I		1) 概要説明と平行透視図法の基本を学ぶ。		
2	演習 (1)		(簡単な立法体を平行透視図法で描ける。)		
3	建築透視図法 I		1) 平行透視図法で簡単な建物を表現してみる。		
4	演習 (2)		(以上のことが理解できて、表現できる。)		
5	建築透視図法 I		1) 有角透視図法の基本を学ぶ。		
6	演習 (3)		(簡単な立法体を有角透視図法で描ける。)		
7					
8	建築透視図法 I		1) 有角透視図法で簡単な建物を表現してみる。		
9	演習 (4)		(以上のことが理解できて、表現できる。)		
10					
11	建築透視図法 I		1) 等測図 (アイソメ) と軸測図 (アクソメ) を学ぶ。		
12	演習 (5)		(簡単な形を描ける。)		
13					
14	添景を描く		1) 添景のスケッチを学ぶ。		
15			(色鉛筆等を使って描いてみる。)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・表現」					
評価割合 各課題評価 90%					
出席状況 10%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で30年の実務経験				

科目名	建築 C A D				
担当教員	井土 英樹	実務授業の有無			
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築生産の流れの中で、コンピューターの活用は現代社会では不可欠なものとなっている。手書きの製図作業で学習したJIS製図通則等建築図面の知識を活かし、汎用2次元C A Dを利用した図面の精度の向上と効率の良い図面作成及び編集、管理を修得する。				
学習目標 (到達目標)	2次元C A Dを利用し、図面を作成できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書名：Jw_cadで学ぶ建築製図の基本 著者：櫻井良明 出版社：(株)エクスマレッジ				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1.2	C A D (Jw_cad) の基本操作 1 ガイダンス		CAD画面各部の名称と役割、C A Dソフト特有のレイヤ、コマンド等 テキスト、教員の説明を基に実習し基本操作を修得する。		
3.4	C A D (Jw_cad) の基本操作 2 作図、編集、管理		簡単な図形の作図、編集を行い基本操作の習得を確実にする。 用紙の設定とスケールに注意し作図を行う。		
5.6	C A D (Jw_cad) による建築製図 1 木造住宅2階建て (既存設計図面)		配置図、1階平面図の作成 設計図面を基に実際にC A D図面を実習により作成する。 レイヤーの概念を修得する		
7.8	C A D (Jw_cad) による建築製図 2 木造住宅2階建て		2階平面図の作成 2階平面図の作成に伴い既に作成済の1階平面図データの 利用、既存データの編集による効率化を修得する		
9.10	C A D (Jw_cad) による建築製図 2 木造住宅2階建て		断面図の作成 断面図の作成に伴い既存データの利用を考える 既存データの編集による効率化を修得する		
11.12	C A D (Jw_cad) による建築製図 3 木造住宅2階建て		立面図の作成 立面図の作成に伴い既存データの利用を考える 既存データの編集による効率化を修得する		
13.14	C A D (Jw_cad) による建築製図 4 木造住宅2階建て		矩計図の作成 矩形図の作成に伴い既存データの利用を考える 既存データの編集による効率化を修得する		
15.16	C A D (Jw_cad) による建築製図 5 木造住宅2階建て		各種詳細図の作成 詳細図の作成に伴い既存データの利用を考える 既存データの編集による効率化を修得する		
17.18	C A D (Jw_cad) による建築製図 6 木造住宅2階建て		展開図の作成 展開図の作成に伴い既存データの利用を考える 既存データの編集による効率化を修得する		
19～ 30	C A D (Jw_cad) による建築製図 7-11 木造住宅2階建て		各種伏図、軸組図、各設備図等の作成 各図の作成に伴い既存データの利用を考える 既存データの編集による効率化を修得する 各種図面の整合性に注意し図面作成、保存、管理を修得する		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
後期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確性・レイアウト・スピード・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%					
実務経験教員の経歴	建築士として、建築現場・設計で27年の実務経験				

科目名	建築実技Ⅰ				
担当教員	小浜 美晴、大倉 健一		実務授業の有無	○	
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	8	時間数	240時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本の伝統建築（匠の技）を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				
学習目標（到達目標）	道具を正しく理解し、作業ができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～ 16	大工道具の説明（概要） 演習(1) 刃物を研ぐ、削る、切る		1) 大工道具について、実技を入れて学ぶ。 (以上のことが理解できて道具を基本的に扱うことができる。)		
17～ 32	作業台を作る 演習(2) 削る、切る、寸法を墨で表示する サシガネを使う。		1) 木材について、（資材としての木材・立木と木材・「あて」材・年輪と節・製材による木の変形・製材・資材の乾燥） 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。		
33～ 48	道具箱を作る 演習(3) 削る、切る、寸法を墨で表示する サシガネを使う。		1) 木材について、（資材としての木材・立木と木材・「あて」材・年輪と節・製材による木の変形・製材・資材の乾燥） 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。		
49～ 80	共同で小屋組の一部を作る 演習(4) 墨付けの基本と加工の正確さ		1) 道具の正しい使い方とその応用を学ぶ。 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。		
81～ 96	額を作る 演習(5) どれだけの正確さで加工できるか		1) 道具の正しい使い方とその応用を学ぶ。 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。		
97～ 120	二法転びの台を作る 演習(6) どれだけの正確さで加工できるか		1) 道具の正しい使い方とその応用を学ぶ。寸法線の正しい表示。 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%			・刃物を使用する作業のため、教員の指導に従うこと。 ・長袖、長ズボンを着用すること。 ・適時、水分補給をすること。		
実務経験教員の経歴	大工、施工管理として、建築現場で30年の実務経験				

科目名	建築実技Ⅱ				
担当教員	小浜 美晴、大倉 健一	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	8	時間数	240時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本の伝統建築（匠の技）を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	継ぎ手、仕口について理解し、その製作ができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1～ 32	四方転びの木箱を作る 演習(1)	1) 指矩の使い方、墨付けの大切さを学ぶ。 (四方転びの難しさを体験し、完成できる。)			
33～ 56	継手・仕口を作る 演習(2)	1) 設計実習での軸組模型製作、1階床部分での土台・柱関係の継手と仕口を実物で作成する。 (以上のことが理解でき、作成することができる。)			
57～ 120	継手・仕口を作る 演習(3)	1) 設計実習での軸組模型製作、2階部分、小屋組の継手と仕口を実物で作成する。 (以上のことが理解でき、作成することができる。)			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
後期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」 評価割合 各課題評価 90% 出席状況 10%		<ul style="list-style-type: none"> ・刃物を使用する作業のため、教員の指導に従うこと。 ・長袖、長ズボンを着用すること。 ・適時、水分補給をすること。 			
実務経験教員の経歴	大工、施工管理として、建築現場で30年の実務経験				

科目名	建築実技Ⅲ				
担当教員	井端 寿伊、小埜原 敏男	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	360時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本の伝統建築（匠の技）を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。*厨子の修復他				
学習目標 (到達目標)	実際の建築物にかかわり、指示に従った作業を行える				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1～ 180	(佐渡)社寺建築の修復 実践技術を学ぶ。	江戸時代の厨子他を図面の作図と合わせて修復する。 古来の技術を学び、それを理解し、棟梁の指導の基で伝統技術を身に付ける。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
前期15週を修復作業とし、個々の理解度と作業能力を週ごとに評価する。 評価割合 技術評価 70% 理解度評価 20% 努力評価 10%		<ul style="list-style-type: none"> ・刃物を使用する作業のため、教員の指導に従うこと。 ・長袖、長ズボンを着用すること。 ・適時、水分補給をすること。 			
実務経験教員の経歴	大工として、建築現場で30年の実務経験				

科目名	建築実技Ⅲ				
担当教員	井端 寿伊、小埜原 敏男	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	240時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本の伝統建築（匠の技）を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。*厨子の修復他				
学習目標 (到達目標)	実際の建築物にかかわり、指示に従った作業を行える				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1～ 120	(佐渡) 社寺建築の修復 実践技術を学ぶ。	江戸時代の厨子他を図面の作図と合わせて修復する。 古来の技術を学び、それを理解し、棟梁の指導の基で伝統技術を身に付ける。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
前期15週を修復作業とし、個々の理解度と作業能力を週ごとに評価する。 評価割合 技術評価 70% 理解度評価 20% 努力評価 10%		<ul style="list-style-type: none"> 刃物を使用する作業のため、教員の指導に従うこと。 長袖、長ズボンを着用すること。 適時、水分補給をすること。 			
実務経験教員の経歴	大工として、建築現場で30年の実務経験				

科目名	建築実技Ⅳ				
担当教員	井土 英樹、佐川 博文	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	480時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本の伝統建築（匠の技）を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				
学習目標（到達目標）	継ぎ手、仕口などを活用し、実践的な作業を行える				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院 初心者のための さしがねの基本と実技 著者：本間正直 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～240	社寺建築への応用		小規模木造（伝統建築）例：茶室を建築する。 又は、社寺建築の修復を民間から受けて実施する。 方法：日本古来の伝統技術で作成する。 目標：工程を決め、丁寧かつ正確に完成すること。		
	評価方法・成績評価基準		履修上の注意		
	作業全体の応用技術を総合評価する。 評価割合 技術評価 70% 理解度評価 20% 努力評価 10%		・刃物を使用する作業のため、教員の指導に従うこと。 ・長袖、長ズボンを着用すること。 ・適時、水分補給をすること。		
実務経験教員の経歴	大工として、建築現場で30年の実務経験				

科目名	建築実技Ⅳ				
担当教員	井土 英樹、佐川 博文	実務授業の有無	○		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	伝統建築・大学科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	12	時間数	360時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本の伝統建築（匠の技）を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	継ぎ手、仕口などを活用し、実践的な作業を行える				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院 初心者のための さしがねの基本と実技 著者：本間正直 出版社：井上書院				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～ 180	社寺建築への応用		小規模木造（伝統建築）例：茶室を建築する。 又は、社寺建築の修復を民間から受けて実施する。 方法：日本古来の伝統技術で作成する。 目標：工程を決め、丁寧かつ正確に完成すること。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
作業全体の応用技術を総合評価する。 評価割合 技術評価 70% 理解度評価 20% 努力評価 10%			・刃物を使用する作業のため、教員の指導に従うこと。 ・長袖、長ズボンを着用すること。 ・適時、水分補給をすること。		
実務経験教員の経歴	大工として、建築現場で30年の実務経験				

建築士技能士養成学科

授業計画書 ①建築設計 I

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築設計 I	前期	4 単位	120 時間
			実務経験のある教員の有無	有

授業のねらい

設計の役割は建築の知識を建物として「考えたものを図面として表現する」まとめあげるための手段である。したがって参考図を読み取る力、表現できる力を学ぶ。

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、2 木造建築物(木造軸組工法) 専用住宅 I	1)配置計画・配置図 敷地と建物の関係を一般科目で学んだことを応用し、考えた配置図とする。
3、4 木造建築物(木造軸組工法) 専用住宅 II	2)平面計画・平面図 建築主の要求に様々な条件を持ちそれを平面計画でまとめる力を養う。(基本的なまとめが出来る。)
5、6	
7、8 木造建築物(木造軸組工法) 専用住宅 III	3)屋根の形状と構造計画 平面図を基に屋根の形状を考える基本的な屋根を参考にまとめる。
9、10	
11、12 木造建築物(木造軸組工法) 専用住宅 IV	4)断面図・立面図 高さ関係を学び表現する。 開口部の位置を正確に表現する。
13、14 木造建築物(木造軸組工法) 専用住宅 V	5)矩計図 構造計画で部材の寸法を学びそれを詳細で表現する。 (理解すると同時に表現できる。)
15	

評価方法

前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」

評価割合

各課題評価	90	%
出席状況	10	%

教科書・教材

初学者の建築講座「建築製図」 著者：瀬川康秀 市ヶ谷出版

学生へのメッセージ

作図は理解ができないと作業が進まない、だから理解することの重要性をみにつけてほしい。

授業計画書 ①建築設計 II

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築設計 II	後期	4 単位	120 時間
			実務経験のある教員の有無	有

授業のねらい

設計の役割は建築の知識を建物として「考えたものを図面として表現する」まとめあげるための手段である。したがって参考図を読み取る力、表現できる力を学ぶ。

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、2 木造建築物(木造軸組工法) 併用住宅 I	1)配置計画・配置図 敷地と建物の関係を一般科目で学んだことを応用し、考えた配置図とする。
3、4 木造建築物(木造軸組工法) 併用住宅 II	2)平面計画・平面図 建築主の要求に様々な条件を持ちそれを平面計画でまとめる力を養う。(基本的なまとめが出来る。)
5、6	
7、8 木造建築物(木造軸組工法) 併用住宅 III	3)屋根の形状と構造計画 平面図を基に屋根の形状を考える基本的な屋根を参考にまとめる。
9、10	
11、12 木造建築物(木造軸組工法) 併用住宅 IV	4)断面図・立面図 高さ関係を学び表現する。 開口部の位置を正確に表現する。
13、14 木造建築物(木造軸組工法) 併用住宅 V	5)矩計図 構造計画で部材の寸法を学びそれを詳細で表現する。 (理解すると同時に表現できる。)
15	

評価方法

前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」

評価割合

各課題評価	90	%
出席状況	10	%

教科書・教材

初学者の建築講座「建築製図」 著者：瀬川康秀 市ヶ谷出版

学生へのメッセージ

作図は理解ができないと作業が進まない、だから理解することの重要性をみにつけてほしい。

授業計画書 ①建築設計 III 担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科2年	建築設計III	前期	2 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	有

授業のねらい

設計の役割は建築の知識を建物として「考えたものを図面として表現する」まとめあげるための手段である。したがって参考図を読み取る力、表現できる力を学ぶ。

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、2 RC造建築物 専用住宅 I	1)配置計画・配置図 敷地と建物の関係を一般科目で学んだことを応用し、考えた配置図とする。
3、4 RC造建築物 専用住宅 II 5、6	2)平面計画・平面図 建築主の要求に様々な条件を持ちそれを平面計画でまとめる力を養う。(基本的なまとめが出来る。)
7、8 Rc造建築物 専用住宅 III 9、10	3)屋根の形状と構造計画 平面図を基に屋根の形状を考える基本的な屋根を参考にまとめる。
11、12 RC造建築物 専用住宅 IV	4)断面図・立面図 高さ関係を学び表現する。 開口部の位置を正確に表現する。
13、14 RC造建築物 専用住宅 V 15	5)矩計図 構造計画で部材の寸法を学びそれを詳細で表現する。 (理解すると同時に表現できる。)

評価方法

前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」

評価割合

各課題評価	90	%
出席状況	10	%

教科書・教材

初学者の建築講座「建築製図」 著者：瀬川康秀 市ヶ谷出版

学生へのメッセージ

作図は理解ができないと作業が進まない、だから理解することの重要性をみにつけてほしい。

授業計画書 ①建築設計 IV 担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科2年	建築設計IV	前期	4 単位	120 時間
			実務経験のある教員の有無	有
授業のねらい 設計の役割は建築の知識を建物として「考えたものを図面として表現する」まとめあげるための手段である。したがって参考図を読み取る力、表現できる力を学ぶ。				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、2 RC造建築物 集合住宅 I	1)配置計画・配置図 敷地と建物の関係を一般科目で学んだことを応用し、考えた配置図とする。
3、4 RC造建築物 集合住宅 II 5、6	2)平面計画・平面図 建築主の要求に様々な条件を持ちそれを平面計画でまとめる力を養う。(基本的なまとめが出来る。)
7、8 RC造建築物 集合住宅 III 9、10	3)屋根の形状と構造計画 平面図を基に屋根の形状を考える基本的な屋根を参考にまとめる。
11、12 RC造建築物 集合住宅 IV	4)断面図・立面図 高さ関係を学び表現する。 開口部の位置を正確に表現する。
13、14 RC造建築物 集合住宅 V 15	5)矩計図 構造計画で部材の寸法を学びそれを詳細で表現する。 (理解すると同時に表現できる。)

評価方法 前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」	評価割合	各課題評価	90 %
		出席状況	10 %
教科書・教材 初学者の建築講座「建築製図」 著者：瀬川康秀 市ヶ谷出版			
学生へのメッセージ 作図は理解ができないと作業が進まない、だから理解することの重要性をみにつけてほしい。			

授業計画書 ①建築設計

担当教員: 木下 俊明

学科 / 学年 / コース	(選択) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科2年	建築造形演習 I	後期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	

授業のねらい

建築物を完成する前に表現する方法は立体表現が欠かせない。イメージしたことが相手に分かりやすく伝える方法でもある。そこでスケッチを含め表現方法を学ぶ。

授業計画

テーマ	内容・方法・達成目標
1、2、 建築透視図法 I 演習 (1)	1) 概要説明と平行透視図法の基本を学ぶ。 (簡単な立体体を平行透視図法で描ける。)
3、4、 建築透視図法 I 演習 (2)	1) 平行透視図法で簡単な建物を表現してみる。 (以上のことが理解できて、表現できる。)
5、6、 建築透視図法 I 演習 (3)	1) 有角透視図法の基本を学ぶ。 (簡単な立体体を有角透視図法で描ける。)
7、8、 建築透視図法 I 9、10、 演習 (4)	1) 有角透視図法で簡単な建物を表現してみる。 (以上のことが理解できて、表現できる。)
11、12、 建築透視図法 I 演習 (5)	1) 等測図(アイソメ)と軸測図(アクソメ)を学ぶ。 (簡単な形を描ける。)
13、14、 添景を描く 15、16、	1) 添景のスケッチを学ぶ。 (色鉛筆等を使って描いてみる。)

評価方法

前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・表現」

評価割合	%
各課題評価	90 %
出席状況	10 %

教科書・教材

書名: 初学者の建築講座 建築製図 著者: 瀬川康秀 市ヶ谷出版社

学生へのメッセージ

授業計画書 ①建築設計

担当教員: 木下 俊明

学科 / 学年 / コース	(選択) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科3年	建築造形演習Ⅱ	後期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	

授業のねらい

建築物を完成する前に表現する方法は立体表現が欠かせない。イメージしたことが相手に分かりやすく伝える方法でもある。そこでスケッチを含め表現方法を学ぶ。

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、2、 建築透視図法 I 演習 (1)	1) 概要説明と線を分割することを学ぶ。 (簡単な立法体を平行透視図法で描ける。)
3、4、 建築透視図法 I 演習 (2)	1) 円と直線をなめらかにつなげる。 (以上のことが理解できて、表現できる。)
5、6、 建築透視図法 I 演習 (3)	1) 全体を俯瞰する。 (簡単な立法体を有角透視図法で描ける。)
7、8、 建築透視図法 I 9、10、 演習 (4)	1) 複雑な立体を描く。 (以上のことが理解できて、表現できる。)
11、12、 建築透視図法 I 演習 (5)	1) 室内の光と影を描く。 (簡単な形を描ける。)
13、14、 添景を描く 15、16、	1) 全景のスケッチを学ぶ。 (色鉛筆等を使って描いてみる。)

評価方法

前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・表現」

評価割合	%
各課題評価	90 %
出席状況	10 %

教科書・教材

書名: 初学者の建築講座 建築製図 著者: 瀬川康秀 市ヶ谷出版社

学生へのメッセージ

授業計画書 ②建築計画

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築計画 I	前期	2 単位	30 時間
			実務経験のある教員の有無	有
<p>授業のねらい</p> <p>計画 I は、(建築物)その中に暮らす人が安心して生活ができるためには、生活そのものへの追求と機能を重視した基本的な面と造形的な美しさを追及する面とを結び合わせて、授業を進めていく。</p>				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 計画一般 1	(1)建築計画のあらまし(2)計画の進め方・計画の基本以上の一般住宅を例題として、進めていく。
2、 計画一般 2	(1)計画の進め方・計画の基本以上の一般住宅を例題として、進めていく。
3、 計画一般 3	(1)構造計画(2)設備計画(3)非難・防災計画以上の内容での計画を例に基本を理解できる。
4、 計画一般 4	(1)高齢者・身体障害者のための計画・ユニバーサルデザイン以上の一般住宅を例題として、進めて理解できる。
5、 各部の計画 1	(1)概要(2)高さに対する寸法(3)各室の所要床面積以上の寸法を実際に実測することができる。
6、 各部の計画 2	(1)通行空間の寸法 a)廊下幅 b)出入口の幅 c)階段・スロープの寸法、勾配 d)扉の開き勝手が理解できる。
7、 各部の計画 3	(1)バリアフリーの寸法 (2)モジュール以上の寸法を実際に実測することで理解できる。
8、9 構法・材料・生産 10、	(1)主体構造(2)建築材料(3)開口部(4)建築生産特に計画上に活かされなければならない、が理解できる。
11、 住宅	(1)独立住宅 a)配置計画 b)平面計画 c)プランタイプ d)各室計画 e)住宅設備、が理解できる。
12、13、平面計画演習 14	一般住宅の実際の課題を計画してみる。平面をまとめることができる。
15、 住宅平面計画総まとめ	設計計画として図面化できる。

評価方法 中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。	評価割合	中間試験	15	%
		期末試験	80	%
		出席状況	5	%

教科書・教材

書名：専門士課程 建築計画 著者：福田健策+高梨亮子 学芸出版社
 補助教材：住まいの寸法・計画辞典 著者：岩井一幸・奥田宗幸 彰国社

学生へのメッセージ

授業計画書 ②建築計画

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築計画Ⅱ	後期	2 単位	30 時間
			実務経験のある教員の有無	有
<p>授業のねらい</p> <p>計画Ⅱは、(建築物)その中に暮らす人が安心して生活ができるためには、生活そのものへの追求と機能を重視した基本的な面と造形的な美しさを追及する面とを結び合わせて、演習も含め、授業を進めていく。</p>				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 集合住宅Ⅰ	(1)集合住宅の分類(2)各種の住棟タイプ いくつかの例を示し、細部のわたり説明ができる。
2、 集合住宅Ⅱ	(1)配置計画(2)住戸計画(3)共用部分 以上集合住宅が理解できる。
3、 住宅地計画	(1)近隣住区理論(2)団地計画(3)スプロール現象 いくつかの例を用い、理解できる。
4、 商業施設Ⅰ	(1)事務所 a)事務所の種類 b)貸事務所の機能と構成 c)平面計画と断面計画、これらの内容が理解できる。
5、 商業施設Ⅱ	c)平面計画と断面計画 d)事務室の計画 e)設備 これらの内容が理解できる。
6、 商業施設Ⅲ	(1)工場・倉庫 a)計画方針 b)クリーンルーム いくつかの例を用い、理解できる。
7、 商業施設Ⅳ	(1)百貨店・スーパーマーケット・一般店舗 a)立地 b)店舗計画 c)売場計画、これらの内容が理解できる。
8、 商業施設Ⅴ	(1)劇場・映画館 a)客席計画 b)舞台・映写室 c)ホワイエ これらの内容が理解できる。
9、 商業施設Ⅵ	(1)ホテル・寄宿舎 a)ホテル b)寄宿舎 (2)駐車場・駐輪場 これらの内容が理解できる。
10、11、12 集合住宅(平面計画演習)	集合住宅の課題条件を提示し、配置計画から平面計画をまとめる。
13、14、15 商業施設(平面計画演習)	商業施設の中のどれかを選択し、課題条件の中で平面をまとめる。

評価方法 中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。	評価割合	中間試験	15	%
		期末試験	80	%
		出席状況	5	%

教科書・教材

書名：専門士課程 建築計画 著者：福田健策+高梨亮子 学芸出版社
 補助教材：住まいの寸法・計画辞典 著者：岩井一幸・奥田宗幸 彰国社

学生へのメッセージ

授業計画書 ②建築計画

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科2年	建築計画Ⅲ	前期	2 単位	30 時間
			実務経験のある教員の有無	有
<p>授業のねらい</p> <p>計画Ⅲは、(建築物)その中に暮らす人が安心して生活ができるためには、生活そのものへの追求と機能を重視した基本的な面と造形的な美しさを追及する面とを結び合わせて、演習も含め、授業を進めていく。</p>				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 社会施設 I	(1)小学校・中学校 a)校地の位置 b)配置計画 地域の学校を例に学び、参考とし、理解できる。
2、 社会施設 II	c)運営方式 d)各部計画 c)諸寸法 地域の学校を例に学び、参考とし、理解できる。
3、 社会施設 III	(1)幼稚園・保育園 a)幼稚園と保育園の違い b)立地 c)配置 計画と機能構成 d)主要室の計画 地域の幼稚園、保育園を例に学び、参考とし、理解できる。
4、5、 社会施設 IV	(1)病院・診療所 a)病院の分類 b)病院の構成 c)一般計画d)各 部門 地域の病院、診療所を例に学び、参考とし、理解できる。
6、 社会施設 V	(1)老人福祉施設 a)施設の種類 b)在宅福祉 c)一般計画 説明されたことがよく理解できる。
7、 社会施設 VI	(1)コミュニティ施設 a)一般計画 説明されたことがよく理解できる。
8、 文化施設 I	(1)図書館 a)図書館の種類 b)機能構成 c)収納システム d)平面計画、以上のことが理解できる。
9、 文化施設 II	(1)博物館・美術館 a)機能構成 b)展示計画 c)収蔵・保管部 分、例題を用いて、理解できる。
10、 文化施設 III	(1)スポーツ施設(体育館) 地域のスポーツ施設を参考にし、理解できる。
11、12、13、14、15、 平面計画演習	社会施設の中のどれかを選択し、課題条件の中で平面をまとめる。

評価方法 中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。	評価割合	中間試験	15	%
		期末試験	80	%
		出席状況	5	%

教科書・教材

書名：専門士課程 建築計画 著者：福田健策+高梨亮子 学芸出版社
 補助教材：住まいの寸法・計画辞典 著者：岩井一幸・奥田宗幸 彰国社

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑤建築構造

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築構造 I	前期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	有

授業のねらい

建築物がどのように成り立っているか、「成り立つ」ということは、いくつかの材料を組み立てて、一つの形をつくり上げることを意味している。つまり、建築構造では、建築物の各部分と全体が、どのような材料を用いて、どのように形づくられているか、また、なぜそのように形づくられるかをねらいとして学ぶ。

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 木構造 I	(1)木構造の特徴 (2)各部の構造 a)基礎 具体例を示し、図解で学び、理解できる。
2、 木構造 II	b)土台 c)柱 具体例を示し、図解で学び、柱の最小径がけいさんできる。
3、4 木構造 III	d)胴差・梁・桁 軸組み模型を参考に、それぞれの役割を説明できる。
5、 木構造 IV	e)小屋組 和小屋・洋小屋(軸組み模型を参考に、説明できる。)
6、 木構造 V	f)床組 床組の方法(軸組み模型を参考に、説明できる。)
7、 木構造 VI	g)真壁・大壁・間柱・貫・火打材 軸組み模型を参考に、それぞれの役割を説明できる。
8、9 木構造 VII	h)接合部 1)継手、2)仕口 実物を用い、それぞれの使用箇所が理解できる。
10、 木構造 VIII	i)筋かい 軸組み模型を参考に、それぞれの役割を説明できる。
11、 木構造 軸組み計算演習 12、 13、 14、 15、	1)簡単な平面図と立面図から、軸組み計算ができる。 2)実際の一般住宅の軸組み計算演習 以上の内容を理解でき、筋かいの種類と箇所を選択できる。

評価方法 中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。	評価割合	中間試験	15 %
		期末試験	80 %
		出席状況	5 %

教科書・教材
 書名: 専門士課程 建築構造 編者: 福田健作+小杉哲也 学芸出版社
 補助教材: 図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版(株) オリジナル軸組み模型 s=1:20

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑤建築構造

担当教員： 井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築構造Ⅱ	後期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	有

授業のねらい

建築物がどのように成り立っているか、「成り立つ」ということは、いくつかの材料を組み立てて、一つの形をつくり上げることを意味している。つまり、建築構造では、建築物の各部分と全体が、どのような材料を用いて、どのように形づくられているか、また、なぜそのように形づくられるかをねらいとして学ぶ。

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 木構造(接合金物)	a)釘、ボルト、木ねじ 使用箇所と強度が説明できる。
2、 木構造(部材の設計)	a)引張材の設計b)圧縮材の設計c)曲げ材の設計d)せん断力 e)たわみ、それぞれの力が理解できる。
3、 木構造(主要構造部以外の構造)	a)階段 b)外部仕上げ c)屋根 d)外壁 e)内部仕上げ 基本的な仕上げ方法が理解できる。
4、 木構造(枠組壁工法)	a)接合金物 b)土台及び基礎 c)床 d)壁 e)小屋組 基本的な内容が理解できる。
5、 鉄筋コンクリート構造 I	a)特徴 b)構造形式 鉄筋コンクリートの特徴と形式が理解でき、説明ができる。
6、 鉄筋コンクリート構造 II	1. 部材の設計 a)許容応力度 コンクリート、鉄筋、ヤング係数比が理解できる。
7、8 鉄筋コンクリート構造 III	1. 「配筋の基本」例題を提示し理解する。
9、	各部材の配筋基本を理解し、説明できる。
10、 鉄筋コンクリート構造 IV	1. 定着及び継手・鉄筋の空きとかぶり厚さ・ひび割れ・壁式工法 耐力壁・以上の基本が理解でき、説明できる。
11、 鉄骨構造 I	a)特徴 b)構造形式 鉄骨構造の特徴と形式が理解でき、説明ができる。
12、 鉄骨構造 II	1. 部材の設計 a)許容応力度 各部材の基本的な応力が説明できる。
13、14 鉄骨構造 III	1. 部材の接合部 a)接合方法と種類 図解の理解と内容が理解できる。
15、 その他の構造	a)補強コンクリートブロック構造 b)SRC構造 c)プレストレスコンクリート 構造。構造の基本を学び理解できる。

評価方法 中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。	評 価 割 合	中間試験	15	%
		期末試験	80	%
		出席状況	5	%

教科書・教材

書名:専門士課程 建築構造 編者:福田健作+小杉哲也 学芸出版社
 補助教材:図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版(株) オリジナル軸組み模型 s=1:20

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑤建築構造

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築構造Ⅲ	前期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	
<p>授業のねらい</p> <p>力の三要素が明確でないと、力は決定できない。この基礎を学び、さらに力の種類①移動させる力、②回転させる力、③偶力のモーメントを建築における応力に置き換えて学ぶことがねらいである。</p>				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 構造力学に必要な算術計算 I	1) 分数、平方根、文字を含んだ式、方程式を学ぶ。 (力学の基礎になる内容をもう一度思い出し、理解できる。)
2、3、 構造力学に必要な算術計算 II	2) 連立方程式、相似形、面積、練習問題 (力学の基礎になる内容をもう一度思い出し、理解できる。)
4、 力の基礎 I	1) 力の表現 2) 力の符号を例題を解きながら学ぶ。 (以上のことが理解でき、例題が解ける。)
5、6、 力の基礎 II	1) 力の効果 2) 力の単位を例題を解きながら学ぶ。 (以上のことが理解でき、例題が解ける。)
7、 力の基礎 III	1) 力のモーメントとは 2) 力のモーメントの符号 3) 並行に並ぶ力の合力を学ぶ。(これらのことが理解でき、例題が解ける。)
8、9、 力の基礎 IV	1) 合力とは 2) 一点に作用する力の合力 3) 並行に並ぶ力の合力を学ぶ。(これらのことが理解でき、例題が解ける。)
10、 力の基礎 V	1) 分布加重とは 2) 分布加重の合力を例題を解きながら学ぶ。 (以上のことが理解でき、例題が解ける。)
11、12、 力の釣り合い	1) 力の釣り合いとは 2) 回転をとまなう力の釣り合いを学ぶ。 (以上のことが理解でき、例題が解ける。)
13、 反力 I	1) 構造物の力学モデル 2) 構造物の支え方を例題を解き学ぶ。 (以上のことが理解でき、例題が解ける。)
14、15、 反力 II	1) 単純梁の反力 2) 集中荷重の場合 3) 分布荷重の場合 4) モーメント荷重の場合を学ぶ。 (以上のことが理解でき、例題が解ける。)

評価方法 中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。	評価割合	中間試験	15 %
		期末試験	80 %
		出席状況	5 %

教科書・教材

書名：専門士課程 建築構造 編者：福田健作+小杉哲也 学芸出版社
 補助教材：図説やさしい構造力学 著者：浅野清昭 学芸出版社

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑤建築構造

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築構造Ⅳ	前期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	
授業のねらい				
力の三要素が明確でないと、力は決定できない。この基礎を学び、さらに力の種類①移動させる力、②回転させる力、③偶力のモーメントを建築における応力に置き換えて学ぶことがねらいである。				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 片持ち梁の反力	1)集中荷重の場合 2)分布荷重の場合を例題を用いて学ぶ。 (以上のことが理解できて、例題が解ける。)
2、 ラーメンの反力	1)水平方向の力の場合 2)鉛直方向の力の場合を例題を用いて学ぶ。(これらのことが理解でき、例題が解ける。)
3、4、 部材に生じる力の解説	1)曲げモーメント 2)せん断力 3)軸方向力を例題を用いて学ぶ。(これらのことが理解でき、例題が解ける。)
5、6、 単純梁に生じる力	1)集中荷重の場合 2)分布荷重の場合 3)モーメント荷重の場合を例題を用いて学ぶ。(これらのことが理解できる。)
7、 片持ち梁に生じる力	1)集中荷重の場合 2)分布荷重の場合を例題を用いて学ぶ。 (以上のことが理解できて、例題が解ける。)
8、 知っているると便利な関係	1)曲げモーメント図はせん断変形の形 2)せん断力のあたえは曲げモーメント図の傾き 3)力のたし合わせ (以上のことが理解できて、例題が解ける。)
9、 部材に生じる力(実戦編)	1)せん断力図を描く方法(矢印図法)を例題を用いて学ぶ。 (以上のことが理解できて、例題が解ける。)
10、 曲げモーメント図の特徴	1)曲げモーメント図を描く方法(スパナ化法・面積法)を例題を用いて学ぶ。(以上のことが理解できて、例題が解ける。)
11、 トラス	1)トラスの考え方 2)接点法 3)図解法 4)切断法を練習問題を用いて学ぶ。(これらのことが理解できて、問題が解ける。)
12、 断面に関する数量	1)図心 2)断面2次モーメントを練習問題を用いて学ぶ。 (これらのことが理解できて、例題が解ける。)
13、 応力度	1)軸応力度 2)曲げ応力度 3)せん断応力度 4)許容応力度 (これらのことが理解できて、例題が解ける。)
14、 座屈・たわみ	1)座屈とは 2)座屈荷重 3)たわみの求め方を練習問題を用いて学ぶ。(これらのことが理解できて、問題が解ける。)
15、 不静定構造の基礎	1)不静定構造とは 2)不静定構造の基礎的開放 (これらのことが理解できて、例題が解ける。)

評価方法 中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。	評価割合	中間試験	15	%
		期末試験	80	%
		出席状況	5	%

教科書・教材
 書名:専門士課程 建築構造 編者:福田健作+小杉哲也 学芸出版社
 補助教材:図説やさしい構造力学 著者:浅野清昭 学芸出版社

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑤建築構造

担当教員:井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科2年	建築構造Ⅴ	前期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	有
授業のねらい 建築に関する材料の様々な性質を学ぶ。				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 木材 I	1)木材の特徴 2)木材の分類と用途 3)木材の組織を学ぶ。 (これらのことが理解できて、説明ができる。)
2、3、 木材 II	4)木材の物理的特性 a)含水率 b)比重 c)強度、を学ぶ。 (これらのことが理解できて、説明ができる。)
4、 木材 III	d)木材の乾燥 e)木材の収縮 f)腐朽・虫害、を学ぶ。 (これらのことが理解できて、説明ができる。)
5、 木材 IV	5)木質系材料 a)合板 b)集成材 c)木質系ボード、を学ぶ。 (これらのことが理解できて、説明ができる。)
6、 コンクリート I	1)セメント a)セメントの種類 b)セメントの製法 c)セメントの性質を学ぶ(これらのことが理解できて、説明ができる。)
7、 コンクリート II	2)骨材 a)骨材の種類 b)骨材の品質を学ぶ。 (これらのことが理解できて、説明ができる。)
8、 コンクリート III	3)水 4)コンクリート a)コンクリートの強度を学ぶ。 (これらのことが理解できて、説明ができる。)
9、10、 コンクリート IV	5)フレッシュコンクリートの性質 a)ワーカービリティ b)スランプ値 c)単位水量、単位セメント量 d)細骨材料 e)材料の分離 f)ブリージング g)沈下を学ぶ。 (これらのことが理解できて、説明ができる。)
11、 コンクリート V	6)固まったコンクリートの性質 a)乾燥収縮b)中性化c)熱特性 7)セメント・コンクリート製品を学ぶ。 (これらのことが理解できて、説明ができる。)
12、13、 金属材料 I 14、15、	1)鋼材 a)炭素鋼 b)炭素鋼の応力度とひずみ度の関係 c)炭素の含有量 d)熱 e)熱処理 f)鋼材の規格 g)合金鋼 2)非鉄金属 3)腐食 (これらのことが理解できて、説明ができる。)

評価方法 中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。	評価割合	中間試験	15	%
		期末試験	80	%
		出席状況	5	%

教科書・教材
 書名:専門士課程 建築構造 編者:福田健作+小杉哲也 学芸出版社
 補助教材:図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版(株)

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑤建築構造

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科2年	建築構造VI	前期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	有
授業のねらい				
建築に関する材料の様々な性質を学ぶ。				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 石材	1)自然石の種類 a)火成岩・推積岩・変成岩 2)人造石の分類の特徴と使用箇所を学ぶ。(これらを理解できる。)
2、3、 ガラス	1)ガラスの種類と用途 a)性質 b)製品 c)ガラス加工品 d)成形品ガラス、ガラス繊維、これらの特徴を学ぶ。
4、5、 陶磁器類	1)タイルの分類 2)かわらの分類、及び用途を学ぶ。(これらが理解できる。)
6、7、 高分子系材料	1)プラスチック 2)アスファルトの特徴と性質を学ぶ。(これらが理解できる。)
8、9、 塗料	1)塗料の種類と特徴を学ぶ。(これらが理解できる。)
10、 接着剤	1)主結合材の種類による分類を学ぶ。(どのような箇所に適するかが理解できる。)
11、12、 シーリング材・左官材料	1)シーリング材の分類 2)左官材料の特徴 3)しっくいと石こう特徴を学ぶ。(どのような箇所に適するかが理解できる。)
13、14、 ボード類	1)石こうボード 2)セメント系ボード 3)木質系ボードの性質と特徴を学ぶ。(どのような箇所に適するかが理解できる。)
15、 その他	1)ポリスチレンフォーム 2)硬質ウレタンフォーム 3)ロックウール 4)グラスウール 5)ポリエチレンフィルム これらの特徴を学ぶ。(どのような箇所に適するかが理解できる。)

評価方法 中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。	評価割合	中間試験	15	%
		期末試験	80	%
		出席状況	5	%

教科書・教材
書名:専門士課程 建築構造 編者:福田健作+小杉哲也 学芸出版社

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑧建築生産

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築施工 I	前期	2 単位	30 時間
			実務経験のある教員の有無	有
授業のねらい				
将来に関連する業務(施工者が正確で迅速かつ安全に、さらにローコスト)において知っておくべき最低の現場実践的な理解を目指す。				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 工事準備	1)申請・届出・手続 2)各調査 以上特に各調査については、安全確保の上で大切である。
2、 仮設工事 I	1)仮設工事の要点 2)仮設工事の種類 a)共通仮設工事 b)直接仮設工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
3、 仮設工事 II	1)仮囲い・仮設建築物等 2)足場の種類 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
4、 仮設工事 III	1)足場の種類 2)栈橋・仮設通路 3)安全施設等 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
5、 土工事 I	1)地盤調査 a)ボーリング b)原位置試験 c)根切り d)排水工法 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
6、 土工事 II	1)山止め工法 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
7、 地業工事	1)直接基礎地形 2)地盤改良工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
8、 基礎工事	1)杭工事 a)材料による分類 b)工法による分類 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
9、10、 施工計画	1)施工計画 2)工程計画 a)工程表 以上の内容を理解し、工程表(ネットワーク)の日数が理解できる。
11、12、 施工管理 13、	1)現場管理 2)安全管理 3)材料管理 4)品質管理 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
14、15、 木工事	1)材料 2)木造の加工 3)造作工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。

評価方法 中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。	評 価 割 合	中間試験	15	%
		期末試験	80	%
		出席状況	5	%

教科書・教材
書名:専門士課程 建築施工 著者:福田健作+渡邊亮一 学芸出版社
補助教材:図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版(株)

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑧建築生産

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築施工Ⅱ	後期	2 単位	30 時間
			実務経験のある教員の有無	有
授業のねらい 将来に関連する業務(施工者が正確で迅速かつ安全に、さらにローコスト)において知っておくべき最低の現場実践的な理解を目指す。				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 鉄筋工事Ⅰ	1)鉄筋の種類 2)鉄筋の加工と組立 鉄筋の性質を学び、加工と組立の基本を理解できる。
2、3、 鉄筋工事Ⅱ	1)鉄筋の定着 2)継ぎ手の種類 特に鉄筋の継手は多種多様に約束事が多く、時間をかけて理解する。
4、5、 型枠工事	1)計画と設計 a)基本計画 b)型枠の設計 2)型枠の材料 3)組立 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
6、 コンクリートⅠ	1)材料 2)用語の説明 3)調合 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
7、8、 コンクリートⅡ	1)製造 2)運搬・打込・養生 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
9、 鉄骨工事Ⅰ	1)材料 2)工場作業 a)工場製作 b)切断 c)穴あけ d)曲げ加工 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
10、 鉄骨工事Ⅱ	1)接合 a)普通ボルト接合 b)高力ボルト接合 c)溶接接合 d)建方 e)検査 f)耐火被覆、これらが理解できる。
11、 防水工事	1)防水の種類 2)メンブレン防水工事 3)シーリング工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
12、 左官工事	1)各種下地 2)塗り工事 3)吹付け工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
13、 タイル工事・石工事	1)タイル工事 2)石工事 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
14、 塗装工事・ガラス工事	1)種類と特性 2)素地ごしらえ 3)工法 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。
15、 内装工事・断熱工事・金属工事	1)種類と特性 2)素地ごしらえ 3)工法 以上の内容を図解・写真等で学び、理解できる。

評価方法 中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。	評 価 割 合	中間試験	15	%
		期末試験	80	%
		出席状況	5	%

教科書・教材
 書名:専門士課程 建築施工 著者:福田健作+渡邊亮一 学芸出版社
 補助教材:図説建築用語辞典 堀越喜与志 実教出版(株)

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑧建築生産

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科2年	建築施工Ⅲ	前期	2 単位	30 時間
			実務経験のある教員の有無	有
授業のねらい 設計図や仕様書などの設計図書に基づいて工事費を産出する。よって設計図を正確に読み取る知識、それを正しく計算できる知識、など様々な角度から演習を繰り返し力をつける。				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 概要説明 工事費の構成と積算用語(1)	建築工事費が、どのような項目から金額が算出されるかを、具体例を示し、説明する。(内容が理解できて、説明できる。)
2、 積算用語(2)	用語の意味を具体的に実務の例を用いて、説明する。(内容が理解できて、説明できる。)
3、 設計数量・計画数量・所要数量	数量算出の方法を例を示し説明する。(内容が理解できる。)
4、5、 積算の基本事項Ⅰ	(1)土工事・地業 根切り作業上のゆとり幅など、具体例を示し計算で算出する。(正しく理解でき、算出することができる。)
6、7、 積算の基本事項Ⅱ	(2)躯体 木造の基礎工事、布基礎部分を設計図を基に実際に計算で算出する。(正しく理解でき、算出することができる。)
8、 積算の基本事項Ⅲ	(3)数量計算の係数及び単位重量を説明する。(正しく理解し説明できる。)
9、10、 積算の基本事項Ⅳ	(4)仕上げ・その他 例：勾配屋根などの長さに対する計算方法を例にとり実際計算する。(正しく算出できる。)
11、 各工事の歩掛・割増率	塗装工事・屋根面積・内装工事他を説明する。(正しく理解でき説明ができる。)
12、 木造住宅の積算演習 13、 14、 15、	(1)木拾いと木材数量の把握 (2)建築数量と労務コスト 実際の設計図から拾い出し、計算結果を現在の金額に置き換えてみる。

評価方法 中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。	評価割合	中間試験	15 %
		期末試験	80 %
		出席状況	5 %

教科書・教材
 書名：専門士課程 建築施工 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社
 補助教材：入門・木造住宅の積算実務 著者：阿部正行

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑨建築法規

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築法規 I	前期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	有

授業のねらい

建築法規は、その建築物を使用・利用する人の生命と健康等を守るための規定—単体規定と集団規定とがある。本講義は建築を学ぶ上で、他の建築科目に基本事項として関係する講義である。したがって健康の知識と同時に法律の用語など難しい内容を図解を用い、理解できる内容で進める。これらの基礎知識を修得することにより、他の建築科目の基本的な役割と建築における社会の役割を説明する。

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 概説 建築基準法1条	建築の法律と学習目標について(建築の法律が社会的にどのような役割をはたしているのか説明できる。)
2、 国の重要建築物について	建築物に関する用語(1)建築物(2)準用工作物 (3)法の適用が除外される建築物などについて説明できる。
3、 用語の定義	(4)特殊建築物についての法規制が一般建築物より厳しい理由を説明できる。
4、 用語の定義	(5)建築設備(6)居室(7)主要構造部とは(これらの用語を的確になぜかを理解し説明できる。)
5、 用語の定義	(8)構造耐力上主要な部分・別科目(建築構造)とあわせて理解し説明ができる。
6、 用語の定義	(9)延焼のおそれのある部分・防火関係の内容とからめて理解し説明ができる。
7、 用語の定義	(10)延焼のおそれのある部分・防火関係の内容とからめて理解し説明ができ、例題を用いて計算できる。
8、 面積・高さ等の算定 1・一般用語	(1)建築(2)大規模の修繕(3)大規模の模様替(4)敷地以上の用語を理解し説明ができる。
9、 面積・高さ等の算定 1・一般用語	(5)地盤面(6)地階以上の用語を理解し説明ができる。
10、 面積・高さ等の算定 2・面積算定	(1)敷地面積(2)建築面積(3)床面積以上の面積計算を参考例を用い、正しい答えを求めることができる。
11、 面積・高さ等の算定 2・面積算定	(4)延べ面積(5)築造面積以上の面積計算を参考例を用い、正しい答えを求めることができる。
12、 面積・高さ等の算定 3・高さ等の算定	(1)建築物の高さ(2)軒の高さ(3)階数(4)避難階以上の(1)で道路斜線の計算例を用い、理解できる。
13、 道路	(1)道路の定義(2)敷地と道路の関係敷地面積などで道路が関係してくる。このことの関係が理解できる。
14、 建築手続 1・用語の定義	(1)建築主(2)設計者(3)工事施工者(4)建築主事(5)特定行政庁建築の計画から完成まで携わる関係者が理解できる。
15、 建築手続 1・用語の定義	(6)指定確認検査機関(7)建築審査会(8)建築確認(9)許可(10)認可 建築に携わる関係機関が理解できる。

評価方法

中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。

評価割合	中間試験	15 %
	期末試験	80 %
	出席状況	5 %

教科書・教材

書名: 専門士課程 建築法規 著者: 福田健作+渡邊亮一 学芸出版社
 補助教材: 建築基準法 法令集

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑨建築法規

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築法規Ⅱ	前期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	有

建築法規は、その建築物を使用・利用する人の生命と健康等を守るための規定—単体規定と集団規定とがある。本講義は建築を学ぶ上で、他の建築科目に基本事項として関係する講義である。したがって健康の知識と同時に法律の用語など難しい内容を図解を用い、理解できる内容で進める。これらの基礎知識を修得することにより、他の建築科目の基本的な役割と建築における社会の役割を説明する。

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 一般構造・設備規定	(1)敷地の衛生及び安全(2)居室の採光(3)有効面積の算定方法以上の採光計算を、例題を用いて理解できる。
2、 一般構造・設備規定	(3)採光有効面積の算定方法以上の採光計算を、例題を用いて理解できる。
3、 一般構造・設備規定	(4)居室の換気(5)特殊建築物の居室の換気(6)「換気設備を設けるべき調理室等」の設ける換気設備(7)換気設備が理解できる。
4、 一般構造・設備規定	(8)居室の天井の高さ(算定)(9)居室の床の高さ及び防湿方法(10)地階における住宅等の居室。が理解できる。
5、 一般構造・設備規定	1)長屋又は共同住宅の各戸の塀壁 2)石綿その他の物質の対策以上の対策と材料を覚える。
6、 一般構造・設備規定	1)換気設備の義務付け、2)天井裏等の制限、3)令第20条の9に基づく居室の認定、が理解できる。
7、 一般構造・設備規定 (階段)	1)踊場の幅、けあげ・踏面の寸法 2)踊場の位置及び踏幅、手摺り等 3)階段に代わる傾斜路 4)特殊の用途に専用する階段
8、 一般構造・設備規定 (便所)	1)便所 2)便所の採光及び換気 3)特殊建築物及び特定区域の便所の構造 4)合併処理浄化槽の構造、以上が理解できる。
9、 一般構造・設備規定 (その他の設備)	1)避雷設備 2)給排水設備 3)昇降機設備、が理解できる。
10、 防火 ・1	1)大規模の建築物の主要構造部 2)法22条指定区域内の建築制限 3)大規模の木造建築物等の外壁等、以上が理解できる。
11、 防火 ・2	1)木造建築物等の防火壁・塀壁等 2)耐火建築物又は準耐火建築物 3)防火区画等 4)建築物に設ける煙突、が理解できる。
12、 避難施設等 ・1	1)無窓居室 2)適用の範囲 3)廊下・直通階段 4)避難階段 5)各種出口・屋外広場等、が理解できる。
13、 避難施設等 ・2	1)排煙設備 2)非常用の照明装置 3)非常用の進入口 4)敷地内の避難上及び消化上必要な通路等、が理解できる。
14、 避難施設等 ・3 構造強度 ・1	1)避難上の安全の検証 2)内装制限、1)構造設計の原則以上の内容が理解できる。
15、 構造強度 ・2	1)許容応力度等の計算、荷重及び外力、許容応力度と材料強度構造部材等、が理解できる。

評価方法 中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。	評	中間試験	15	%
	合	期末試験	80	%
	割	出席状況	5	%

教科書・教材
書名：専門士課程 建築法規 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社
補助教材：建築基準法 法令集

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑨建築法規

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築法規Ⅲ	後期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	有

授業のねらい

建築法規は、その建築物を使用・利用する人の生命と健康等を守るための規定—単体規定と集団規定とがある。本講義は建築を学ぶ上で、他の建築科目に基本事項として関係する講義である。したがって健康の知識と同時に法律の用語など難しい内容を図解を用い、理解できる内容で進める。これらの基礎知識を修得することにより、他の建築科目の基本的な役割と建築における社会の役割を説明する。

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 用途地域	1)用途地域 2)特別用途地域 3)特定用途制限地域 4)住居系用途地域における自動車車庫の規制、を理解できる。
2、 面積制限 1	1)容積率、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。
3、 面積制限 2	2)容積率、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。
4、 面積制限 3	1)建蔽率、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。
5、 建築物の高さ 1	1)道路斜線制限 2)隣地斜線制限、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。
6、 建築物の高さ 2	1)北側斜線 2)天空率 3)日影による中高層の建築物の高さ制限、が理解できる。
7、 防火地域・準防火地域	防火地域・準防火地域の内容が理解できる。
8、 基準法のその他の規定	1)建築協定 2)地区計画等の区域 3)その他 これらの内容が理解できる。
9、 建築士法	1)目的 2)定義 3)設計、工事監理 4)免許・登録 5)その他 これらの内容が理解できる。
10、 建設業法	1)目的 2)定義 3)建設業の許可 4)その他 これらの内容が理解できる。
11、 その他の法律	1)消防法
12、	2)都市計画法
13、	3)住宅の品質確保の促進等に関する法律(品確法)
14、	4)高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 (バリアフリー新法)
15、	5)建築物の耐震改修の促進に関する法律

評価方法

中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。

評 価 割 合	中間試験	15 %
	期末試験	80 %
	出席状況	5 %

教科書・教材

書名: 専門士課程 建築法規 著者: 福田健作+渡邊亮一 学芸出版社
 補助教材: 建築基準法 法令集

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑨建築法規

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築法規Ⅳ	後期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	有

授業のねらい

建築法規は、その建築物を使用・利用する人の生命と健康等を守るための規定—単体規定と集団規定とがある。本講義は建築を学ぶ上で、他の建築科目に基本事項として関係する講義である。したがって健康の知識と同時に法律の用語など難しい内容を図解を用い、理解できる内容で進める。これらの基礎知識を修得することにより、他の建築科目の基本的な役割と建築における社会の役割を説明する。前期の復習とし、知識として頭に入れる。

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 概説 建築基準法1条	建築の法律と学習目標について(建築の法律が社会的にどのような役割をはたしているのか説明できる。)
2、 国の重要建築物について	建築物に関する用語(1)建築物(2)準用工作物 (3)法の適用が除外される建築物などについて説明できる。
3、 用語の定義	(4)特殊建築物についての法規制が一般建築物より厳しい理由を説明できる。
4、 用語の定義	(5)建築設備(6)居室(7)主要構造部とは(これらの用語を的確になぜかを理解し説明できる。)
5、 用語の定義	(8)構造耐力上主要な部分・別科目(建築構造)とあわせて理解し説明ができる。
6、 用語の定義	(9)延焼のおそれのある部分・防火関係の内容とからめて理解し説明ができる。
7、 用語の定義	(10)延焼のおそれのある部分・防火関係の内容とからめて理解し説明ができ、例題を用いて計算できる。
8、 面積・高さ等の算定 1・一般用語	(1)建築(2)大規模の修繕(3)大規模の模様替(4)敷地以上の用語を理解し説明ができる。
9、 面積・高さ等の算定 1・一般用語	(5)地盤面(6)地階以上の用語を理解し説明ができる。
10、 面積・高さ等の算定 2・面積算定	(1)敷地面積(2)建築面積(3)床面積以上の面積計算を参考例を用い、正しい答えを求めることができる。
11、 面積・高さ等の算定 2・面積算定	(4)延べ面積(5)築造面積以上の面積計算を参考例を用い、正しい答えを求めることができる。
12、 面積・高さ等の算定 3・高さ等の算定	(1)建築物の高さ(2)軒の高さ(3)階数(4)避難階以上の(1)で道路斜線の計算例を用い、理解できる。
13、 道路	(1)道路の定義(2)敷地と道路の関係敷地面積などで道路が関係してくる。このことの関係が理解できる。
14、 建築手続 1・用語の定義	(1)建築主(2)設計者(3)工事施工者(4)建築主事(5)特定行政庁建築の計画から完成まで携わる関係者が理解できる。
15、 建築手続 1・用語の定義	(6)指定確認検査機関(7)建築審査会(8)建築確認(9)許可(10)認可 建築に携わる関係機関が理解できる。

評価方法

中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。

評価割合	中間試験	15 %
	期末試験	80 %
	出席状況	5 %

教科書・教材

書名：専門士課程 建築法規 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社
 補助教材：建築基準法 法令集

学生へのメッセージ

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科2年	建築法規V	前期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	有

授業のねらい

建築法規は、その建築物を使用・利用する人の生命と健康等を守るための規定—単体規定と集団規定とがある。本講義は建築を学ぶ上で、他の建築科目に基本事項として関係する講義である。したがって健康の知識と同時に法律の用語など難しい内容を図解を用い、理解できる内容で進める。これらの基礎知識を修得することにより、他の建築科目の基本的な役割と建築における社会の役割を説明する。1年次の復習とし、知識として頭に入れる。

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 一般構造・設備規定	(1)敷地の衛生及び安全(2)居室の採光(3)有効面積の算定方法以上の採光計算を、例題を用いて理解できる。
2、 一般構造・設備規定	(3)採光有効面積の算定方法以上の採光計算を、例題を用いて理解できる。
3、 一般構造・設備規定	(4)居室の換気(5)特殊建築物の居室の換気(6)「換気設備を設けるべき調理室等」の設ける換気設備(7)換気設備が理解できる。
4、 一般構造・設備規定	(8)居室の天井の高さ(算定)(9)居室の床の高さ及び防湿方法(10)地階における住宅等の居室。が理解できる。
5、 一般構造・設備規定	1)長屋又は共同住宅の各戸の塀壁 2)石綿その他の物質の対策以上の対策と材料を覚える。
6、 一般構造・設備規定	1)換気設備の義務付け、2)天井裏等の制限、3)令第20条の9に基づく居室の認定、が理解できる。
7、 一般構造・設備規定 (階段)	1)踊場の幅、けあげ・踏面の寸法 2)踊場の位置及び踏幅、手摺り等 3)階段に代わる傾斜路 4)特殊の用途に専用する階段
8、 一般構造・設備規定 (便所)	1)便所 2)便所の採光及び換気 3)特殊建築物及び特定区域の便所の構造 4)合併処理浄化槽の構造、以上が理解できる。
9、 一般構造・設備規定 (その他の設備)	1)避雷設備 2)給排水設備 3)昇降機設備、が理解できる。
10、 防火 ・1	1)大規模の建築物の主要構造部 2)法22条指定区域内の建築制限 3)大規模の木造建築物等の外壁等、以上が理解できる。
11、 防火 ・2	1)木造建築物等の防火壁・塀壁等 2)耐火建築物又は準耐火建築物 3)防火区画等 4)建築物に設ける煙突、が理解できる。
12、 避難施設等 ・1	1)無窓居室 2)適用の範囲 3)廊下・直通階段 4)避難階段 5)各種出口・屋外広場等、が理解できる。
13、 避難施設等 ・2	1)排煙設備 2)非常用の照明装置 3)非常用の進入口 4)敷地内の避難上及び消化上必要な通路等、が理解できる。
14、 避難施設等 ・3 構造強度 ・1	1)避難上の安全の検証 2)内装制限、1)構造設計の原則以上の内容が理解できる。
15、 構造強度 ・2	1)許容応力度等の計算、荷重及び外力、許容応力度と材料強度構造部材等、が理解できる。

評価方法

中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。

評価割合	中間試験	15 %
	期末試験	80 %
	出席状況	5 %

教科書・教材

書名：専門士課程 建築法規 著者：福田健作+渡邊亮一 学芸出版社
 補助教材：建築基準法 法令集

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑨建築法規

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(必修) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科2年	建築法規VI	前期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	有

授業のねらい

建築法規は、その建築物を使用・利用する人の生命と健康等を守るための規定—単体規定と集団規定とがある。本講義は建築を学ぶ上で、他の建築科目に基本事項として関係する講義である。したがって健康の知識と同時に法律の用語など難しい内容を図解を用い、理解できる内容で進める。これらの基礎知識を修得することにより、他の建築科目の基本的な役割と建築における社会の役割を説明する。1年次の復習とし、知識として頭に入れる。

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 用途地域	1)用途地域 2)特別用途地域 3)特定用途制限地域 4)住居系用途地域における自動車車庫の規制、を理解できる。
2、 面積制限 1	1)容積率、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。
3、 面積制限 2	2)容積率、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。
4、 面積制限 3	1)建蔽率、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。
5、 建築物の高さ 1	1)道路斜線制限 2)隣地斜線制限、例題を進めながら、計算で正確な答えまで導くことができる。
6、 建築物の高さ 2	1)北側斜線 2)天空率 3)日影による中高層の建築物の高さ制限、が理解できる。
7、 防火地域・準防火地域	防火地域・準防火地域の内容が理解できる。
8、 基準法のその他の規定	1)建築協定 2)地区計画等の区域 3)その他 これらの内容が理解できる。
9、 建築士法	1)目的 2)定義 3)設計、工事監理 4)免許・登録 5)その他 これらの内容が理解できる。
10、 建設業法	1)目的 2)定義 3)建設業の許可 4)その他 これらの内容が理解できる。
11、 その他の法律	1)消防法
12、	2)都市計画法
13、	3)住宅の品質確保の促進等に関する法律(品確法)
14、	4)高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 (バリアフリー新法)
15、	5)建築物の耐震改修の促進に関する法律

評価方法

中間・期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。

評 価 割 合	中間試験	15 %
	期末試験	80 %
	出席状況	5 %

教科書・教材

書名: 専門士課程 建築法規 著者: 福田健作+渡邊亮一 学芸出版社
補助教材: 建築基準法 法令集

学生へのメッセージ

授業計画書

⑩その他

当教員:小浜 美晴、大倉 健

学科 / 学年 / コース	(選択) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科1年	建築実技 I	前期	8 単位	240 時間
			実務経験のある教員の有無	有
授業のねらい 日本の伝統建築(匠の技)を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、2、 大工道具の説明(概要) 演習(1) 刃物を研ぐ、削る、切る	1)大工道具について、実技を入れて学ぶ。 (以上のことが理解できて道具を基本的に扱うことができる。)
3、4、 作業台を作る 演習(2) 削る、切る、寸法を墨で表示する サシガネを使う。	1)木材について、(資材としての木材・立木と木材・「あて」材・年輪と節・製材による木の変形・製材・資材の乾燥) 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。
5、6、 道具箱を作る 演習(3) 削る、切る、寸法を墨で表示する サシガネを使う。	1)木材について、(資材としての木材・立木と木材・「あて」材・年輪と節・製材による木の変形・製材・資材の乾燥) 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。
7、8、 共同で小屋組の一部を作る 9、10、 演習(4) 墨付けの基本と加工の正確さ	1)道具の正しい使い方とその応用を学ぶ。 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。
11、12、 額を作る 演習(5) どれだけの正確さで加工できるか	1)道具の正しい使い方とその応用を学ぶ。 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。
13、14、 二法転びの台を作る 15、 演習(6) どれだけの正確さで加工できるか	1)道具の正しい使い方とその応用を学ぶ。寸法線の正しい表示。 以上のことを実物を加工しながら学ぶ。

評価方法 前期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」	評価割合	%
		各課題評価 90 %
		出席状況 10 %

教科書・教材 書名:木造建築の木取りと墨付け 著者:田處博昭 監修:藤澤一 出版社:井上書院

学生へのメッセージ

授業計画書

⑩その他

〔教員：井端 寿伊、小笠原 〕

学科 / 学年 / コース	(選択) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科2年	建築実技Ⅱ	前期	8 単位	240 時間
			実務経験のある教員の有無	有
授業のねらい 日本の伝統建築(匠の技)を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、2、 四方転びの木箱を作る 3、4、 演習(1)	1) 指矩の使い方、墨付けの大切さを学ぶ。 (四方転びの難しさを体験し、完成できる。)
5、6、 継手・仕口を作る 7、 演習(2)	1) 設計実習での軸組模型製作、1階床部分での土台・柱関係の継手と仕口を実物で作成する。 (以上のことが理解でき、作成することができる。)
8、9、 継手・仕口を作る 10、11、 演習(3) 12、13、 14、15、	1) 設計実習での軸組模型製作、2階部分、小屋組の継手と仕口を実物で作成する。 (以上のことが理解でき、作成することができる。)

評価方法 後期全体の演習を通して課題ごとに評価する。「正確・丁寧・理解度・完成度」	評価割合	%
		各課題評価 90 %
		出席状況 10 %

教科書・教材 書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑩その他

担当教員:磯部清純

学科 / 学年 / コース	(選択) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科2年	建築実技Ⅲ	前期	8 単位	240 時間
			実務経験のある教員の有無	有
授業のねらい 日本の伝統建築(匠の技)を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。* 厨子の修復他				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 (佐渡)社寺建築の修復 ～ 実践技術を学ぶ。 15、	江戸時代の厨子他を図面の作図と合わせて修復する。 古来の技術を学び、それを理解し、棟梁の指導の基で伝統技術を身に付ける。

評価方法 前期15週を修復作業とし、個々の理解度と作業能力を週ごとに評価する。	評価割合	技術評価	70 %
		理解度評価	20 %
		努力評価	10 %

教科書・教材

 書名: 木造建築の木取りと墨付け 著者: 田處博昭 監修: 藤澤一 出版社: 井上書院

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑩その他

担当教員：磯部清純

学科 / 学年 / コース	(選択) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科3年	建築実技Ⅳ	前期	8 単位	240 時間
			実務経験のある教員の有無	有
授業のねらい 日本の伝統建築(匠の技)を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。* 厨子の修復他				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 (佐渡)社寺建築の修復 ～ 実践技術を学ぶ。 15、	江戸時代の厨子他を図面の作図と合わせて修復する。 古来の技術を学び、それを理解し、棟梁の指導の基で伝統技術を身に付ける。

評価方法 前期15週を修復作業とし、個々の理解度と作業能力を週ごとに評価する。	評価割合	技術評価	70 %
		理解度評価	20 %
		努力評価	10 %

教科書・教材 書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑩その他

担当教員:磯部清純

学科 / 学年 / コース	(選択) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科3年	建築実技V	前期	8 単位	240 時間
			実務経験のある教員の有無	
授業のねらい 日本の伝統建築(匠の技)を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 社寺建築への応用 1～15週	小規模木造(伝統建築)例:茶室を建築する。 又は、社寺建築の修復を民間から受けて実施する。 方法:日本古来の伝統技術で作成する。 目標:工程を決め、丁寧かつ正確に完成すること。

評価方法 作業全体の応用技術を総合評価する。	評価割合	技術評価	70 %
		理解度評価	20 %
		努力評価	10 %

教科書・教材

書名:木造建築の木取りと墨付け 著者:田處博昭 監修:藤澤一 出版社:井上書院
 初心者のための さしがねの基本と実技 著者:本間正直 出版社:井上書院

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑩その他

担当教員:磯部清純

学科 / 学年 / コース	(選択) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科3年	建築実技VI	前期	8 単位	240 時間
			実務経験のある教員の有無	
授業のねらい 日本の伝統建築(匠の技)を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 社寺建築への応用 1～15週	小規模木造(伝統建築)例:茶室を建築する。 又は、社寺建築の修復を民間から受けて実施する。 方法:日本古来の伝統技術で作成する。 目標:工程を決め、丁寧かつ正確に完成すること。

評価方法 作業全体の応用技術を総合評価する。	評価割合	技術評価	70 %
		理解度評価	20 %
		努力評価	10 %

教科書・教材

書名:木造建築の木取りと墨付け 著者:田處博昭 監修:藤澤一 出版社:井上書院
 初心者のための さしがねの基本と実技 著者:本間正直 出版社:井上書院

学生へのメッセージ

授業計画書

⑩その他

担当教員：磯部清純

学科 / 学年 / コース	(選択) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科3年	建築実技Ⅶ	前期	8 単位	240 時間
			実務経験のある教員の有無	有
授業のねらい 日本の伝統建築(匠の技)を基本から学び、将来、社寺建築の修復の携われることのできるような訓練を目標に学ぶ。				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1、 棒すみ製作、丸太組 ～ 特に材料の選択を身に付けること。 15、	社寺建築の部分的な部材を基本に技術を学ぶ。 グループごとに組み手を作成し、最終的に一つの形に完成させる。 特に丁寧な仕事及要求される。

評価方法 後期全体の演習を通して「正確・理解度・完成度」を評価する。	評価割合	技術評価	70 %
		理解度評価	20 %
		努力評価	10 %

教科書・教材

書名：木造建築の木取りと墨付け 著者：田處博昭 監修：藤澤一 出版社：井上書院
 初心者のための さしがねの基本と実技 著者：本間正直 出版社：井上書院

学生へのメッセージ

授業計画書

⑩その他

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(選択) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科2年	建築CAD I	前期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	有
<p>授業のねらい</p> <p>建築生産の中でコンピューター活用は不可欠である。手書き製図作業で学習した知識を活かし、汎用2次元CADを使用した図面精度の向上と効率の良い図面作成および編集、管理を習得する</p>				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1～4 CAD(JWCAD)の基本操作1	CAD画面各部の名称と役割、ソフト特有のレイヤ、コマンド等テキスト、教員の説明をもとに実習し基本操作を習得する
5～7 基本操作2	簡単な図形の作図、編集を行い基本操作の習得を確実にする 用紙の設定とスケールに注意し作図を行う
8～11木造住宅2階建ての作図	配置、平面図の作成 設計図面を基にCAD図面を作成する レイヤーの概念を習得する
12～15木造住宅2階建ての作図	各伏せ図の作成 部材のかかり方や接合部の描き方などを習得する

評価方法 後期全体の演習を通して「正確・理解度・完成度」を評価する。	評価割合	技術評価	70 %
		理解度評価	20 %
		努力評価	10 %

教科書・教材

「JWCADで学ぶ建築製図の基本」 著者 櫻井義明、出版社 (株)エクスナレッジ

学生へのメッセージ

授業計画書 ⑩その他

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(選択) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科3年	建築CAD II	前期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	
授業のねらい 建築生産の中でコンピューター活用は不可欠である。手書き製図作業で学習した知識を活かし、汎用2次元CADを使用した図面精度の向上と効率の良い図面作成および編集、管理を習得する				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1～4 木造住宅2階建ての作図	昨年度の続きで 立面、断面図の作成 既存データの利用と編集による効率化を習得する
5～7 木造住宅2階建ての作図	矩計図の作成 己ぞデータの利用と編集による効率化を習得する
8～11 木造住宅2階建ての作図	各詳細図の作成 己ぞデータの利用と編集による効率化を習得する
12～15 木造住宅2階建ての作図	各展開図の作成 己ぞデータの利用と編集による効率化を習得する

評価方法 後期全体の演習を通して「正確・理解度・完成度」を評価する。	評価割合	技術評価	70 %
		理解度評価	20 %
		努力評価	10 %

教科書・教材

 「JWCADで学ぶ建築製図の基本」 著者 櫻井義明、出版社 (株)エクスナレッジ

学生へのメッセージ

授業計画書

⑩その他

担当教員：井土英樹

学科 / 学年 / コース	(選択) 科目名	開講期間	単位数	総授業時間
建築士・技能士養成学科3年	建築CADⅢ	後期	4 単位	60 時間
			実務経験のある教員の有無	
<p>授業のねらい</p> <p>建築生産の中でコンピューター活用は不可欠である。手書き製図作業で学習した知識を活かし、汎用2次元CADを使用した図面精度の向上と効率の良い図面作成および編集、管理を習得する</p>				

授業計画	
テーマ	内容・方法・達成目標
1～4 木造住宅2階建ての作図	実際の2級建築士試験問題を描く 平面、配置、伏せ図の作成 既存データの利用と編集による効率化を習得する
5～7 木造住宅2階建ての作図	立面、断面図の作成 己ぞデータの利用と編集による効率化を習得する
8～11木造住宅2階建ての作図	矩計、各詳細図の作成 己ぞデータの利用と編集による効率化を習得する
12～15木造住宅2階建ての作図	各展開図の作成 己ぞデータの利用と編集による効率化を習得する

評価方法 後期全体の演習を通して「正確・理解度・完成度」を評価する。	評価割合	技術評価	70 %
		理解度評価	20 %
		努力評価	10 %

教科書・教材

「JWCADで学ぶ建築製図の基本」 著者 櫻井義明、出版社 (株)エクスナレッジ

学生へのメッセージ

公務員学科

科目名	キャリアデザイン				
担当教員	徳野 寛二	実務授業の有無	無		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	公務員	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	8	時間数	90
授業概要、目的、授業の進め方	公務員・公務員試験に必要な情報を行政からの業務説明会・インターネットを通して学ぶ。公共性、公務員の仕事内容について理解することを目的とする。				
学習目標(到達目標)	公務員・公務員試験について理解し、目指すべき公務員の指針を決めることができる。				
テキスト・教材・参考図書	自作プリント・スライド				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1～3	各種公務員・公務員試験について			自作スライド・インターネット等で指導。	
4～8	市役所業務説明会			各行政機関から来校していただき業務説明会を実施。	
9	佐渡消防署業務説明会				
10	自衛隊業務説明会				
11	新潟県警業務説明会				
12	海上保安庁業務説明会				
13	佐渡税務署業務説明会			個別に面談を行う。	
14～15	志望省庁面談				
16～20	面接カード作成(志望動機)				
21～25	面接カード作成(自己PR)				
26～30	面接カード作成(仕上げ)				
31～40	個人面接練習			志望する省庁に向けて準備を行う。	
41～45	集団面接練習				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価割合	出席状況	30%			
	授業貢献度	70%			
実務経験教員の経歴		無			

科目名	判断推理 I				
担当教員	徳野 寛二	実務授業の有無	無		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	公務員	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	8	時間数	120
授業概要、目的、授業の進め方	<p>公務員試験の得点源でもある判断推理を基礎から学習する。</p> <p>1年間で全範囲を網羅し基礎的な問題に対応できることを目的とす。</p> <p>また授業中に過去問、模試などを用いて問題演習の授業を展開していく。</p>				
学習目標 (到達目標)	判断推理分野の基礎的な問題が解ける。				
テキスト・教材・参考図書	公務員合格セミナー 一般知能テキスト (株式会社実務教育出版)				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1~3	Lesson 1 集合	ポイント解説と問題演習			
4~6	lesson 2 命題	ポイント解説と問題演習			
7~9	lesson 3 対応関係	ポイント解説と問題演習			
10~12	lesson 4 順序関係	ポイント解説と問題演習			
13~15	lesson 5 位置関係	ポイント解説と問題演習			
16~18	lesson 6 試合の勝敗	ポイント解説と問題演習			
18~21	lesson 7 発言推理	ポイント解説と問題演習			
22~24	lesson 8 数量関係	ポイント解説と問題演習			
25~27	lesson 9 操作の手順	ポイント解説と問題演習			
28~30	lesson 10 暗号	ポイント解説と問題演習			
31~33	lesson 11 規則性	ポイント解説と問題演習			
34~36	lesson 12 平面構成	ポイント解説と問題演習			
37~39	lesson 13 平面分割	ポイント解説と問題演習			
40~42	lesson 14 移動・回転・軌跡	ポイント解説と問題演習			
43~45	lesson 15 折り紙と重ね合わせ	ポイント解説と問題演習			
46~48	lesson 16 位相と経路	ポイント解説と問題演習			
49~50	lesson 17 方位と位置	ポイント解説と問題演習			
51~52	lesson 18 立体構成	ポイント解説と問題演習			
53~54	lesson 19 正多面体	ポイント解説と問題演習			
55~56	lesson 20 展開図	ポイント解説と問題演習			
57~58	lesson 21 投影図	ポイント解説と問題演習			
59~60	lesson 22 立体の切断・回転・結合	ポイント解説と問題演習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
評価割合	出席状況 20%				
	前期考査 40%				
	後期考査 40%				
実務経験教員の経歴	無				

科目名	数的推理 I				
担当教員	徳野 寛二	実務授業の有無		無	
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	公務員	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	8	時間数	120
授業概要、目的、授業の進め方	<p>数理的な問題演習を通して、計算能力の基礎を構築する。</p> <p>高校生までに既習の内容から、公務員試験に対応出来る内容に発展させた授業を行う。</p> <p>過去問、模擬試験なども交え学習の定着を狙う。</p>				
学習目標 (到達目標)	判断推理分野の基礎的な問題が解ける。				
テキスト・教材・参考図書	公務員合格セミナー 一般知能テキスト (株式会社実務教育出版)				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1~2	Lesson 1 数の計算			ポイント解説と問題演習	
3~4	lesson 2 約数・倍数			ポイント解説と問題演習	
5~6	lesson 3 商と余り			ポイント解説と問題演習	
7~8	lesson 4 記数法			ポイント解説と問題演習	
9~11	lesson 5 数量問題			ポイント解説と問題演習	
12~13	lesson 6 覆面算、魔方陣			ポイント解説と問題演習	
14~16	lesson 7 数列			ポイント解説と問題演習	
17~18	lesson 8 方程式、関数			ポイント解説と問題演習	
19~21	lesson 9 連立方程式			ポイント解説と問題演習	
22~24	lesson 10 方程式の整数解			ポイント解説と問題演習	
25~26	lesson 11 不等式			ポイント解説と問題演習	
27~29	lesson 12 時計算、年齢算、平均			ポイント解説と問題演習	
30~31	lesson 13 集合			ポイント解説と問題演習	
32~33	lesson 14 速さ・距離・時間			ポイント解説と問題演習	
34~35	lesson 15 旅人算、流水算			ポイント解説と問題演習	
36~37	lesson 16 通過算			ポイント解説と問題演習	
38~39	lesson 17 比、割合			ポイント解説と問題演習	
40~41	lesson 18 濃度			ポイント解説と問題演習	
42~43	lesson 19 百分率、増加率			ポイント解説と問題演習	
44~45	lesson 20 仕事算			ポイント解説と問題演習	
46~47	lesson 21 給排水算、ニュートン算			ポイント解説と問題演習	
48~49	lesson 22 三角形と面積			ポイント解説と問題演習	
50~51	lesson 23 円と面積			ポイント解説と問題演習	
52~53	lesson 24 立体図形			ポイント解説と問題演習	
54~55	lesson 25 場合の数			ポイント解説と問題演習	
56~57	lesson 26 順列			ポイント解説と問題演習	
58~59	lesson 27 組合せ			ポイント解説と問題演習	
60	lesson 28 確率			ポイント解説と問題演習	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価割合	出席状況	20%			
	前期考査	40%			
	後期考査	40%			
実務経験教員の経歴			無		

科目名	人文科学Ⅰ				
担当教員	徳野 寛二	実務授業の有無	無		
授業形態	対面授業・映像授業				
対象学科	公務員	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	8	時間数	120
授業概要、目的、授業の進め方	オンライン授業をメインに歴史、地理に分けて授業を行う。 広範囲に渡る人文科学の知識を総復習することを目的とする。				
学習目標 (到達目標)	人文科学分野の基礎知識を習得する				
テキスト・教材・参考図書	実務教育出版 人文科学テキスト				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1～2	日本史 lesson1	縄文・弥生・古墳時代	映像視聴・プリント演習		
3～4	日本史 lesson2	武家社会の変遷	映像視聴・プリント演習		
5～6	日本史 lesson3	戦国大名と織豊政権	映像視聴・プリント演習		
7～8	日本史 lesson4	幕藩体制	映像視聴・プリント演習		
9～10	日本史 lesson5	明治時代	映像視聴・プリント演習		
11～12	日本史 lesson6	大正時代～昭和前期	映像視聴・プリント演習		
13～14	日本史 lesson7	第二次世界大戦後の諸改革	映像視聴・プリント演習		
15～16	日本史 lesson8	テーマ史	映像視聴・プリント演習		
17～18	世界史 lesson1	古代文明	映像視聴・プリント演習		
19～20	世界史 lesson2	ローマ帝国とキリスト教	映像視聴・プリント演習		
21～22	世界史 lesson3	中世ヨーロッパ世界	映像視聴・プリント演習		
23～24	世界史 lesson4	絶対王政と市民革命	映像視聴・プリント演習		
25～26	世界史 lesson5	列強の帝国主義政策	映像視聴・プリント演習		
27～28	世界史 lesson6	第一次世界大戦前後	映像視聴・プリント演習		
29～30	世界史 lesson7	第二次世界大戦～現代	映像視聴・プリント演習		
31～32	世界史 lesson8	イスラーム世界の歴史	映像視聴・プリント演習		
33～34	世界史 lesson9	中国史	映像視聴・プリント演習		
35～36	世界史 lesson10	テーマ史	映像視聴・プリント演習		
37～38	地理 lesson1	自然環境	映像視聴・プリント演習		
39～40	地理 lesson2	気候・土壌	映像視聴・プリント演習		
41～42	地理 lesson3	民族・人口・交通・地図	映像視聴・プリント演習		
43～44	地理 lesson4	世界の農林水産業	映像視聴・プリント演習		
45～46	地理 lesson5	世界の鉱工業	映像視聴・プリント演習		
47～48	地理 lesson6	アジア・アフリカ	映像視聴・プリント演習		
49～50	地理 lesson7	ヨーロッパ	映像視聴・プリント演習		
51～52	地理 lesson8	南アメリカ・オセアニア	映像視聴・プリント演習		
53～54	地理 lesson9	日本の自然・貿易	映像視聴・プリント演習		
55～56	地理 lesson10	日本の産業	映像視聴・プリント演習		
57	地理 lesson11	世界の都市、公害、環境問題	映像視聴・プリント演習		
58	倫理 lesson1	西洋の思想（古代、近世）	映像視聴・プリント演習		
59	倫理 lesson2	西洋の思想（近代、現代）	映像視聴・プリント演習		
60	倫理 lesson3	東洋の思想	映像視聴・プリント演習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価割合	出席状況	20%			
	前期考査	40%			
	後期考査	40%			
実務経験教員の経歴			無		

科目名	社会科学Ⅰ				
担当教員	徳野 寛二	実務授業の有無	無		
授業形態	対面授業・映像授業				
対象学科	公務員	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60
授業概要、目的、授業の進め方	オンライン授業をメインに政治、経済に分けて授業を行う。 広範囲に渡る社会科学の知識を総復習することを目的とする。				
学習目標 (到達目標)	社会科学の基礎知識を取得する				
テキスト・教材・ 参考図書	実務教育出版 社会科学テキスト				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	政治	lesson1	民主政治の基本原則	映像視聴・プリント演習	
2	政治	lesson2	主要国の政治制度	映像視聴・プリント演習	
3	政治	lesson3	日本国憲法	映像視聴・プリント演習	
4	政治	lesson4	基本的人権（総論）	映像視聴・プリント演習	
5	政治	lesson5	基本的人権（各論）	映像視聴・プリント演習	
6	政治	lesson6	国会	映像視聴・プリント演習	
7	政治	lesson7	内閣	映像視聴・プリント演習	
8	政治	lesson8	裁判所	映像視聴・プリント演習	
9	政治	lesson9	地方自治	映像視聴・プリント演習	
10	政治	lesson10	政党と選挙制度	映像視聴・プリント演習	
11	政治	lesson11	国際政治	映像視聴・プリント演習	
12	政治	lesson12	国際連合	映像視聴・プリント演習	
13	経済	lesson1	需要と供給	映像視聴・プリント演習	
14	経済	lesson2	市場	映像視聴・プリント演習	
15	経済	lesson3	企業	映像視聴・プリント演習	
16	経済	lesson4	国民所得と景気変動	映像視聴・プリント演習	
17	経済	lesson5	金融の仕組み	映像視聴・プリント演習	
18	経済	lesson6	財政の仕組み	映像視聴・プリント演習	
19	経済	lesson7	日本経済の発展	映像視聴・プリント演習	
20	経済	lesson8	国際経済	映像視聴・プリント演習	
21	経済	lesson9	地域的経済統合	映像視聴・プリント演習	
22		lesson1	社会学	映像視聴・プリント演習	
23		lesson2	労働問題	映像視聴・プリント演習	
24		lesson3	人口問題	映像視聴・プリント演習	
25		lesson4	社会保障	映像視聴・プリント演習	
26		lesson5	環境問題	映像視聴・プリント演習	
27~30			総合演習	映像視聴・プリント演習	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価割合	出席状況	20%			
	前期考査	40%			
	後期考査	40%			
実務経験教員の経歴			無		

科目名	自然科学 I				
担当教員	徳野 寛二	実務授業の有無	無		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	公務員	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60
授業概要、目的、授業の進め方	対面授業と映像授業を併用して計算分野・暗記分野の学習を行う。 全分野の基礎的な内容に絞って学習を行う				
学習目標 (到達目標)	自然科学の基礎知識を取得する				
テキスト・教材・参考図書	実務教育出版 自然科学科キスト				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	物理 lesson1	力のつりあい	ポイント解説と問題演習		
2	物理 lesson2	物体の運動	ポイント解説と問題演習		
3	物理 lesson3	エネルギーと運動量	ポイント解説と問題演習		
4	物理 lesson4	電流と磁界	ポイント解説と問題演習		
5	物理 lesson5	波動	ポイント解説と問題演習		
6	物理 lesson6	熱・原子ほか	ポイント解説と問題演習		
7	数学 lesson1	数と式	ポイント解説と問題演習		
8	数学 lesson2	方程式と不等式	ポイント解説と問題演習		
9	数学 lesson3	関数とグラフ	ポイント解説と問題演習		
10	数学 lesson4	平面図形と立体図形	ポイント解説と問題演習		
11	数学 lesson5	数列その他	ポイント解説と問題演習		
12	化学 lesson1	化学反応と物質質量	ポイント解説と問題演習		
13	化学 lesson2	物質の状態	ポイント解説と問題演習		
14	化学 lesson3	酸と塩基	ポイント解説と問題演習		
15	化学 lesson4	酸化と還元	ポイント解説と問題演習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価割合	出席状況	20%	生物・地学においては映像視聴課題を与える。		
	前期考査	40%			
	後期考査	40%			
実務経験教員の経歴		無			

科目名	簿記演習				
担当教員	徳野 寛二		実務授業の有無	無	
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	公務員	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60
授業概要、目的、授業の進め方	<p>社会に出てから有用な技術である簿記についての基礎的な内容を習得する。 日商簿記検定試験3級合格を目標にした授業を行う。</p>				
学習目標 (到達目標)	日商簿記検定試験3級合格程度の学力を身につける。				
テキスト・教材・参考図書	TAC出版 よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 TAC出版 よくわかる簿記シリーズ 合格するための問題集 日商簿記3級				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	テーマ1	簿記の意義		ポイント解説と問題演習	
2	テーマ2	財務諸表と簿記の5要素		ポイント解説と問題演習	
3	テーマ3	日常の手続き		ポイント解説と問題演習	
4	テーマ4	商品売買		ポイント解説と問題演習	
5	テーマ5	現金・預金		ポイント解説と問題演習	
6	テーマ6	小口現金		ポイント解説と問題演習	
7	テーマ7	クレジット売掛金		ポイント解説と問題演習	
8	テーマ8	手形取引		ポイント解説と問題演習	
9	テーマ9	電子記録債権・債務		ポイント解説と問題演習	
10	テーマ10	その他の取引Ⅰ		ポイント解説と問題演習	
11	テーマ11	その他の取引Ⅱ		ポイント解説と問題演習	
12	テーマ12	さまざまな帳簿の関係		ポイント解説と問題演習	
13	テーマ13	試算表		ポイント解説と問題演習	
14	テーマ14	決算		ポイント解説と問題演習	
15	テーマ15	決算整理Ⅰ 現金過不足		ポイント解説と問題演習	
16	テーマ16	決算整理Ⅱ 売上原価		ポイント解説と問題演習	
17	テーマ17	決算整理Ⅲ 貸倒れ		ポイント解説と問題演習	
18	テーマ18	決算整理Ⅳ 減価償却		ポイント解説と問題演習	
19	テーマ19	決算整理Ⅴ 貯蔵品		ポイント解説と問題演習	
20	テーマ20	決算整理Ⅵ 当座借越		ポイント解説と問題演習	
21	テーマ21	決算整理Ⅶ 経過勘定項目		ポイント解説と問題演習	
22	テーマ22	決算整理後残高試算表		ポイント解説と問題演習	
23	テーマ23	精算表		ポイント解説と問題演習	
24	テーマ24	帳簿の締め切り		ポイント解説と問題演習	
25	テーマ25	損益計算書と貸借対照表		ポイント解説と問題演習	
26	テーマ26	株式の発行		ポイント解説と問題演習	
27	テーマ27	剰余金の配当と処分		ポイント解説と問題演習	
28	テーマ28	税金		ポイント解説と問題演習	
29	テーマ29	証ひょう		ポイント解説と問題演習	
30	テーマ30	伝票		ポイント解説と問題演習	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価割合	出席状況	30%			
	授業内テスト	50%			
	試験結果	20%			
実務経験教員の経歴			無		

科目名	文章理解Ⅰ				
担当教員	徳野 寛二	実務授業の有無	無		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	公務員	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	文章理解対策とともに作文対策も行う。 配点の高い文章理解で点数をとれるよう、また作文に慣れていくための演習を行う。				
学習目標 (到達目標)	文章理解で7割以上得点できるようになる。				
テキスト・教材・ 参考図書	実務教育出版 一般知能テキスト				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～2	国語 現代文（要旨把握）		ポイント解説と問題演習		
3	作文演習		過去出題課題対策		
4～5	国語 現代文（内容把握）		ポイント解説と問題演習		
6	作文演習		過去出題課題対策		
7～8	国語 現代文（空欄補充）		ポイント解説と問題演習		
9	作文演習		過去出題課題対策		
10～11	国語 現代文（文章整序）		ポイント解説と問題演習		
12	作文演習		過去出題課題対策		
13～14	英文（内容把握）		ポイント解説と問題演習		
15	英文（空欄補充）		ポイント解説と問題演習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価割合	出席状況	30%			
	授業課題	50%			
	小テスト	20%			
実務経験教員の経歴		無			

科目名	コンピューター実習Ⅰ				
担当教員	後藤 唯	実務授業の有無	無		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	公務員	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	Microsoft Office Wordについての基本操作を習得する。 テキストの演習問題を使い実際のパソコンに向かい演習を行う。				
学習目標 (到達目標)	文章処理能力検定3級の合格を目標とする。				
テキスト・教材・ 参考図書	Word2021クイックマスター 基本編 Word文書処理技能認定試験 問題集				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1～3	タイピング演習			タイピングの基礎練習	
4	chapter1 wordの基本			テキスト解説と実技演習	
5	chapter2 文字入力と編集の基本操作			テキスト解説と実技演習	
6	chapter3 文章の編集			テキスト解説と実技演習	
7	chapter4 文章の印刷			テキスト解説と実技演習	
8	chapter5 文章の作成			テキスト解説と実技演習	
9	chapter6 表を使った文章の作成			テキスト解説と実技演習	
10	chapter7 図形や画像を使った文章の作成			テキスト解説と実技演習	
11～15	実践問題演習			テキスト解説と実技演習	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価割合	出席状況	30%			
	授業課題	70%			
実務経験教員の経歴			無		

科目名	公務員試験演習Ⅰ				
担当教員	徳野 寛二	実務授業の有無	無		
授業形態	対面授業のみ実施				
対象学科	公務員	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	90
授業概要、目的、 授業の進め方	公務員試験合格を目的とした模擬試験演習を行う。 時間配分や試験の特徴なども合わせて学習する。				
学習目標 (到達目標)	公務員試験に慣れ、効率の良い解き方を取得する。				
テキスト・教材・ 参考図書	実務教育出版 校内統一模試				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～2	第1回校内模試		模擬試験実施		
3	解説授業		ポイント解説		
4～5	第2回校内模試		模擬試験実施		
6	解説授業		ポイント解説		
7～8	第3回校内模試		模擬試験実施		
9	解説授業		ポイント解説		
10～11	第4回校内模試		模擬試験実施		
12	解説授業		ポイント解説		
13～14	第5回校内模試		模擬試験実施		
15	解説授業		ポイント解説		
16～17	第6回校内模試		模擬試験実施		
18	解説授業		ポイント解説		
19～20	第7回校内模試		模擬試験実施		
21	解説授業		ポイント解説		
22～23	第8回校内模試		模擬試験実施		
24	解説授業		ポイント解説		
25～26	第9回校内模試		模擬試験実施		
27	解説授業		ポイント解説		
28～29	第10回校内模試		模擬試験実施		
30	解説授業		ポイント解説		
31～32	第11回校内模試		模擬試験実施		
33	解説授業		ポイント解説		
34～35	第12回校内模試		模擬試験実施		
36	解説授業		ポイント解説		
37～38	第13回校内模試		模擬試験実施		
39	解説授業		ポイント解説		
40～41	第14回校内模試		模擬試験実施		
42	解説授業		ポイント解説		
43～44	第15回校内模試		模擬試験実施		
45	解説授業		ポイント解説		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価割合	出席状況	50%			
	模試結果	50%			
実務経験教員の経歴		無			

AI・ITエンジニア学科

